

基礎音楽			高橋拓真／野戸智美／小林可奈	
選択科目	講義	2単位	1年次	複数
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目			
担当教員の実務経験	—			
<p>&lt;授業概要&gt;            保育者として必要な演奏の技能や基本的な音楽の仕組み(楽典)を習得することで、豊かな音楽性を養い、幼児の表現を支えるための知識・技能・表現力の向上を目指す。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;            ・音楽表現の基礎を習得し、音楽の規則や仕組み(楽典)を理解している。            ・協働して表現することを通し、多様な表現を受け止め共感する能力を養うことができる。            ・季節の歌や音楽遊びを通して豊かな音楽性を育み、幼児の表現活動を展開させる技術を習得することができる。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;            楽典(音楽の基礎)・手あそび(うたあそび)・歌唱・リズム課題などを用いて、音楽活動や演奏に必要な知識、技能(楽譜の読譜、演奏技能、楽典)についての基礎を学ぶ。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;            第1回：ガイダンス 音楽理論の意味と楽典の内容及び授業方針の概要の説明            第2回：楽典①(譜表と音名) 校歌・附属幼稚園園歌・生活の歌 手を使ったうたあそび            第3回：楽典① 春の歌 手を使ったうたあそび            第4回：楽典②(音符と休符) 春の歌 手を使ったうたあそび            第5回：楽典② 春の歌 食べものが出てくるうたあそび            第6回：楽典③(リズムと拍子) 夏の歌 食べものが出てくるうたあそび            第7回：楽典③ 夏の歌 食べものが出てくるうたあそび            第8回：楽典④(奏法と曲想) 秋の歌 動物が出てくるうたあそび            第9回：楽典④ 子どもの歌① 動物が出てくるうたあそび            第10回：楽典⑤(音階・移調) 子どもの歌① 動物が出てくるうたあそび            第11回：楽典⑤ 子どもの歌② からだを使ったうたあそび            第12回：楽典⑥(和音) 子どもの歌② からだを使ったうたあそび            第13回：楽典⑥ 子どもの歌② からだを使ったうたあそび            第14回：まとめ(筆記試験対策) 校歌・生活の歌・冬の歌            第15回：学期末試験(筆記) 振り返り授業</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;            事後学修としてノート又はプリントを整理し理解を深め、不明点などは学生間または教員に聞き解消しておくこと。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;            「保育実用書シリーズ こどものうた200」小林美実編 チャイルド社            「新・たのしい子どものうたあそび-現場で活かせる保育実践- 第2版」木村鈴代編 同文書院</p>				
<p>&lt;教科書・参考資料&gt;            幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)            幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;            学期末試験 50% 授業中課題(小テスト) 40% 受講状況 10%            60~69点を「可」・70~79点を「良」・80点以上を「優」として単位認定する。</p>				
<p>&lt;備考&gt;            特になし</p>				

環境			岸本圭子	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	領域・保育内容の指導法に関する科目「(環境)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(環境)」			
担当教員の実務経験	私立幼稚園にて幼稚園教員として勤務			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>具体的に保育現場での子どもの様子や保育者の姿を見ていながら、領域「環境」に関する内容や活動の選び方と計画や環境構成、指導の実際、評価の方法などについて学ぶ。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>子どもの姿に合わせながら「環境」に関連する保育の活動を選んで、その保育環境について考えることが出来るようにする。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>テキストやプリントに加え、視覚教材や事例を通して学生自身が調べ学習をし、グループワークや体験学習などを通して、実践的に知識や技術を身につける。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション、子どもと環境について</p> <p>第2回 保育内容「環境」について</p> <p>第3回 保育内容「環境」の展開について</p> <p>第4回 保育の過程について(子ども理解、保育のPDCAについて)</p> <p>第5回 ものとのかかわりの実践について (保育の場にあるものとのかかわりとは)</p> <p>第6回 自然とのかかわりの実践について① (自然での遊び)</p> <p>第7回 自然とのかかわりの実践について② (指導法)</p> <p>第8回 数量・図形とのかかわりの実践について</p> <p>第9回 標識・文字とのかかわりの実践について</p> <p>第10回 身近な情報とのかかわりの実践について</p> <p>第11回 身近な施設・地域・様々な文化とのかかわりの実践について</p> <p>第12回 行事とのかかわりの実践について (保育における行事の意義を考えよう)</p> <p>第13回 遊びを通した総合的な指導の展開について①</p> <p>第14回 遊びを通した総合的な指導の展開について②</p> <p>第15回 小学校との連携・接続の展開・環境にかかわる現代の課題とまとめ、試験</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>次回の授業内容に基づき調べ学習(資料やテキストを読む)や、保育教材の準備など行う。学習内容を復習し、自分の考えをまとめる。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>特になし</p>				
<p>&lt;教科書・参考資料&gt;</p> <p>「幼稚園教育要領解説 (平成 30 年 3 月)」文部科学省</p> <p>「保育所保育指針解説 (平成 30 年 3 月)」厚生労働省</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (平成 30 年 3 月)」内閣府・文部科学省・厚生労働省</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>提出物(振り返り・作品他)・発表・授業への取り組みなど 50%・試験 50%</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

音楽Ⅱ		野戸智美／他 17 名		
必修科目	演習	2 単位	2 年次	単独／クラス分け
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（「音楽Ⅱ」）			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「音楽Ⅱ」）			
担当教員の実務経験	ー			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>1 本校独自の音楽グレード制をベースに、最低目標値をバイエル終了程度とする。</p> <p>2 年間 10 回程度のグレード検定試験を設定し、個々のペースにあわせて受験する。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>1 保育の場で必要とされる、総合的な音楽の基礎力を学び身につける。</p> <p>2 主にピアノを媒介として、鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法並びに弾き歌いの力を養成する。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>レッスン時間は 15 分～20 分とし、各自のレッスン開始時間に不在の場合は、遅刻・早退・または欠席として扱う。レッスン以外の時間は各自課題に取り組む。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第 1 回：ガイダンス ピアノ学習の目的と心構え ピアノ担当教員紹介 グレード設定の確認。</p> <p>第 2 回：ブルグミュラーNo.1.2 童謡弾き歌い レガート奏法 スタッカート奏法の説明。</p> <p>第 3 回：ブルグミュラーNo.1.2 童謡弾き歌い レガート奏法 スタッカート奏法の確認。</p> <p>第 4 回：ブルグミュラーNo.3.4 童謡弾き歌い メロディーの歌い方 3 度奏法の説明。</p> <p>第 5 回：ブルグミュラーNo.3.4 童謡弾き歌い メロディーの歌い方 3 度奏法の確認。</p> <p>第 6 回：ブルグミュラーNo.5.6 童謡弾き歌い 連続する 16 分音符や左右の手での 10 度並進行の奏法と説明。</p> <p>第 7 回：ブルグミュラーNo.5.6 童謡弾き歌い 連続する 16 分音符や左右の手で 10 度の並進行をバランスよく弾く。</p> <p>第 8 回：ブルグミュラーNo.7.8 童謡弾き歌い 右第 1 指で弾く保持音奏法についての説明。</p> <p>第 9 回：ブルグミュラーNo.7.8 童謡弾き歌い 装飾音符についてと第 8 回の振り返り。</p> <p>第 10 回：ブルグミュラーNo.9.10 童謡弾き歌い 長い曲になれる。</p> <p>第 11 回：ブルグミュラーNo.9.10 童謡弾き歌い 第 10 回の振り返りと確認。</p> <p>第 12 回：ブルグミュラーNo.1～No.10 の中から任意で 2 曲選択・音の確認 童謡弾き歌い。</p> <p>第 13 回：ブルグミュラーNo.1～No.10 の中から任意で 2 曲選択・奏法の確認 童謡弾き歌い。</p> <p>第 14 回：ブルグミュラーNo.1～No.10 の中から任意で 2 曲選択・強弱のバランス確認 童謡弾き歌い。</p> <p>第 15 回：ブルグミュラーNo.1～No.10 の中から任意で 2 曲選択・暗譜 童謡弾き歌い。（5 グレード）</p> <p>第 16 回：ブルグミュラーNo.11.12 童謡弾き歌い 上行・下行の動きや両手同時のスタッカート、3 連符。</p> <p>第 17 回：ブルグミュラーNo.11.12 童謡弾き歌い、確認。</p> <p>第 18 回：ブルグミュラーNo.13.14 童謡弾き歌い トリル 装飾音符について説明。</p> <p>第 19 回：ブルグミュラーNo.13.14 童謡弾き歌い、確認。</p> <p>第 20 回：ブルグミュラーNo.15.16 童謡弾き歌い 和音のバランスや左右のバランス。</p> <p>第 21 回：ブルグミュラーNo.15.16 童謡弾き歌い、確認。</p> <p>第 22 回：ブルグミュラーNo.17.18 童謡弾き歌い 連打や 16 分音符の意識。</p> <p>第 23 回：ブルグミュラーNo.17.18 童謡弾き歌い、確認。</p> <p>第 24 回：ブルグミュラーNo.19.20 童謡弾き歌い ペダルでの和音のレガート奏法 音価。</p> <p>第 25 回：ブルグミュラーNo.19.20 童謡弾き歌い、確認。</p> <p>第 26 回：ブルグミュラーNo.11～No.25 の中から任意で 2 曲選択・音の確認 童謡弾き歌い</p> <p>第 27 回：ブルグミュラーNo.11～No.25 の中から任意で 2 曲選択・奏法の確認 童謡弾き歌い</p> <p>第 28 回：ブルグミュラーNo.11～No.25 の中から任意で 2 曲選択・強弱のバランス確認 童謡弾き歌い</p> <p>第 29 回：ブルグミュラーNo.11～No.25 の中から任意で 2 曲選択・全体の纏まりと速度 童謡弾き歌い</p> <p>第 30 回：ブルグミュラーNo.11～No.25 の中から任意で 2 曲選択・暗譜 童謡弾き歌い</p> <p>※ 個人指導を含む為、同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>定めたグレード合格を目標とし、ピアノ練習の鍛錬を毎日重ねることが基本である。</p> <p>また、練習方法を工夫し人前での演習に耐えうる精神を鍛え、毎週のレッスンで課された課題を復習・予習すること。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>ドレミ出版社「こどもの歌名曲アルバム」、聖ヶ丘教育福祉専門学校発行「童謡曲集」・「マーチ曲集」</p> <p>全音出版社「全訳バイエルピアノ教則本」、全音出版社「ブルグミュラー 25 の練習曲」</p>				
<p>&lt;教科書・参考資料&gt;</p> <p>幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>【出欠席の確認】</p> <p>授業の最初に点呼をとる。各自のレッスン開始時間に不在の場合は、遅刻・早退・または欠席として扱う。</p> <p>実技試験 100%</p> <p>60～69 点を「可」・70～79 点を「良」・80 点以上を「優」として単位を認定する。</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

英語		加藤磨理子		
必修科目	演習	2単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	—			
担当教員の実務経験	幼稚園、保育園での英語指導の実務経験あり			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>テキスト『保育の英会話』をベースに、歌、映像資料などを取り入れて、子どもが英語に親しみ新しい文化を知るきっかけを与える保育者を目指す。前半ではテキスト演習の座学を中心に。後半では子ども向けの英語の歌を、歌詞の内容と子どもが興味を惹くポイントを理解した上で、保育現場で実際に使うことができるように練習をする。適宜、映像資料も視聴する。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>国際化の進行する保育現場において、英語を母語とする幼児、保護者と、日本語を母語とする幼児への双方に対して、基本的な英語でのコミュニケーションが取れるようになることを目指す。保育に最低限必要な英単語を理解し、正確に発音、表記することができるようになる。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>グループワーク</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 インTRODakション 授業の進め方、自己紹介</p> <p>第2回 Unit1 保育の英会話への第一歩 “The Alphabet Song”</p> <p>第3回 Unit1 リスニングの基本、保育の英単語 “Finger Family”</p> <p>第4回 Unit2 挨拶の決まり “Bingo”</p> <p>第5回 Unit2 家庭調査票を読み取る “Mary Had a Little Lamb”</p> <p>第6回 Unit3 時刻の表し方 “Good Morning”</p> <p>第7回 Unit3 持ち物のお知らせと数 “Lazy Mary”</p> <p>第8回 Unit4 地図と場所 “Sunday,Monday,Tuesday”</p> <p>第9回 Unit4 道案内をしてみよう “Head,Shoulders,Knees and Clap!”</p> <p>第10回 Unit5 子供の遊び “Happy Birthday to you”</p> <p>第11回 Unit5 動作と遊びの英単語 “The Hokey-Pokey”</p> <p>第12回 Unit6 登園、今日の天気は？/グループワーク</p> <p>第13回 Unit6 降園、どんな一日だった？/グループワーク</p> <p>第14回 Unit6 自分のことを表現しよう ～したことある？/グループワーク</p> <p>第15回 グループ発表、試験とまとめ</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>授業時間内で取り扱った英文法の復習のため、テキスト内の指示した箇所の問題を解き、丸付け、直しまでを完了させる。</p> <p>また授業期間に計5回行う予定の単語テストの際は、試験前にあらかじめ指定した保育現場で使用する英単語の書き取り練習、テスト対策を行う。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>『保育の英会話』（赤松直子、久富陽子著 萌文書林）</p>				
<p>&lt;教科書・参考資料&gt;</p> <p>『くもんはじめてのえいごうたえほん』（公文教育研究会英語教材部）</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>実技60%、筆記試験（単語テスト）20%、グループワークへの積極性（最終回のグループ発表に向けて、複数で協力し合って一つの作品を作り出す姿勢に着目する。実際の保育の現場を想定して、積極的なコミュニケーションを取り合うことを目標にする）20%</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

英語		加藤磨理子		
必修科目	演習	2単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	—			
担当教員の実務経験	幼稚園、保育園での英語指導の実務経験あり			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>テキスト『保育の英会話』をベースに、歌、映像などを取り入れて、子どもが英語に親しみ新しい文化を知るきっかけを与える保育者を目指す。授業の前半ではテキスト演習の座学を中心に。後半では子ども向けの英語の歌を、歌詞の内容と子どもが興味を惹くポイントを理解した上で、保育現場で実際に使うことができるように練習をする。適宜、映像資料も視聴する。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>国際化の進行する保育現場において、英語を母語とする幼児、保護者と、日本語を母語とする幼児への双方に対して、基本的な英語でのコミュニケーションが取れるようになることを目指す。保育に最低限必要な英単語を理解し、正確に発音、表記することができるようになる。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>グループワーク</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 インTRODakShION 授業概要。前期授業とのつながり。</p> <p>第2回 Unit7 保育者の一日 保育者の一日を振り返ろう “Twinkle, Twinkle, Little Star、</p> <p>第3回 Unit7 保育者の一日 0歳、一歳児の保育 “London Bridge、</p> <p>第4回 Unit8 昼食の始まり、声かけをしよう “1,2,3,4,5 Clap Clap、</p> <p>第5回 Unit8 献立を覚えよう “The Wheels on the Bus、</p> <p>第6回 Unit9 トイレと排泄 “Old MacDonald Had a Farm、</p> <p>第7回 Unit9 連絡帳 “Row, Row, Row Your Boat、</p> <p>第8回 Unit10 子ども同士の喧嘩 “Where Is Thumbkin?、</p> <p>第9回 Unit10 ～してはいけません、～しましょう “Seven Steps、</p> <p>第10回 Unit11 怪我と病気①保護者へ報告 “Pat-a-Cake, Pat-a-Cake、</p> <p>第11回 Unit11 怪我と病気②けがや病気の英単語 “Are You Sleeping?、</p> <p>第12回 Unit12 電話でのやりとり／グループワーク</p> <p>第13回 Unit14 赤ちゃんへの声かけ／グループワーク</p> <p>第14回 Unit15 卒園／グループワーク</p> <p>第15回 グループ発表、試験とまとめ</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>授業時間内で取り扱った英文法の復習のため、テキスト内の指示した箇所の問題を解き、丸付け、直しまでを完了させる。</p> <p>また授業期間に計5回行う予定の単語テストの際は、試験前にあらかじめ指定した保育現場で使用する英単語の書き取り練習、テスト対策を行う。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>『保育の英会話』（赤松直子、久富陽子著 萌文書林）</p>				
<p>&lt;教科書・参考資料&gt;</p> <p>『くもんはじめてのえいごうたえほん』（公文教育研究会英語教材部）</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>実技60%、筆記試験（単語テスト）20%、グループワークへの積極性（最終回のグループ発表に向けて、複数で協力し合って一つの作品を作り出す姿勢に着目する。実際の保育の現場を想定して、積極的なコミュニケーションを取り合うことを目標にする）20%</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

ピアノレッスン B		野戸智美/他 17 名	
選択科目	実技	1 単位	1 年次 複数
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（「ピアノレッスン B」）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「ピアノレッスン B」）		
担当教員の実務経験	ー		
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者に求められる音楽の基礎知識を学ぶ。</li> <li>・鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法及び弾き歌いの力を修得する。</li> </ul>			
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の基礎知識を学び、楽譜を正確に理解し演奏する力を養う。</li> <li>・鍵盤楽器奏法の基礎、童謡歌曲等の伴奏法、及び弾き歌いの方法を学ぶことで、幼児の表現活動を展開させる技術を修得する。</li> <li>・グレード6級以上（バイエル修了程度）の演奏技術を修得する。</li> </ul>			
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の習熟度に応じた個人レッスンを実施し、本校独自のグレード制に沿って学びを進める。</li> <li>・習熟度に合わせてグレードを受験することができる。</li> </ul>			
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第 1 回：グレード設定の確認。 バイエルNo.99.100.101.102。 複付点音符 ポジションの跳躍。 童謡任意弾き歌い マーチ。</p> <p>第 2 回：バイエルNo.99.100.101.102。 童謡任意弾き歌い マーチ。</p> <p>第 3 回：バイエルNo.103.104.105。 半音階奏法。 童謡・マーチの奏法。</p> <p>第 4 回：バイエルNo.103.104.105。 童謡任意弾き歌い マーチ。</p> <p>第 5 回：バイエルNo.103.104.105。 童謡任意弾き歌いマーチの確認。</p> <p>第 6 回：バイエルNo.100.102.104.105。 の中より任意の 2 曲 童謡マーチの中より任意の 2 曲。</p> <p>第 7 回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.1 童謡 マーチの中から「あるきましょう」「はしりましょう」</p> <p>第 8 回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.2 童謡 マーチの中から「おとのマーチ」</p> <p>第 9 回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.3 童謡 マーチの中から「おともだち」「オリンピア・マーチ」</p> <p>第 10 回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.4 童謡 マーチの中から「お料理行進曲」</p> <p>第 11 回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.5 童謡 マーチの中から「かけっこマーチ」「かけあしマーチ」</p> <p>第 12 回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.6 童謡 マーチの中から「カレンダーマーチ」</p> <p>第 13 回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.7 童謡 マーチの中から「きれいな小川」「子供の世界」</p> <p>第 14 回：ブルグミュラー 25 の練習曲 No.8 童謡 マーチの中から「小犬のマーチ」「なかよしマーチ」</p> <p>第 15 回：ブルグミュラー 25 の練習曲No.9 童謡 マーチの中から「バースデイ・マーチ」「パレードマーチ」</p> <p>※ 個人指導を含む為、同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。</p>			
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>定めたグレード合格を目標とし、ピアノ練習の鍛錬を毎日重ねることが基本である。 また、練習方法を工夫し人前での演習に耐えうる精神を鍛い、毎週のレッスンで課された課題を復習・予習すること。</p>			
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>全音出版社「全訳バイエルピアノ教則本」、全音出版社「ブルグミュラー 25 の練習曲」 「保育実用書シリーズ こどものうた 200」小林美実編 チャイルド社 聖ヶ丘教育福祉専門学校発行「童謡曲集」・「マーチ曲集」</p>			
<p>&lt;教科書・参考資料&gt;</p> <p>幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p>			
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>【出欠席の確認】 授業の最初に点呼をとる。各自のレッスン開始時間に不在の場合は、遅刻・早退・または欠席として扱う。</p> <p>実技試験（各級で取得した点数の平均を最終成績とする） 100% 60～69 点を「可」・70～79 点を「良」・80 点以上を「優」として単位を認定する。</p>			
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>爪は短く整え、ネイルアート等は控えること。演奏に支障をきたすと判断された場合はグレード試験を受験することができない場合もあるため留意すること。 自身の楽譜、及び筆記用具（楽譜に記入する際は鉛筆が望ましい）を準備しレッスンに臨むこと。</p>			

ピアノレッスン A		野戸智美／他 17 名	
選択科目	実技	1 単位	1 年次 複数
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（「ピアノレッスン A」）		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「ピアノレッスン A」）		
担当教員の実務経験	ー		
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者に求められる音楽の基礎知識を学ぶ。</li> <li>・鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法及び弾き歌いの力を修得する。</li> </ul>			
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の基礎知識を学び、楽譜を正確に理解し演奏する力を養う。</li> <li>・鍵盤楽器奏法の基礎、童謡歌曲等の伴奏法、及び弾き歌いの方法を学ぶことで、幼児の表現活動を展開させる技術を修得する。</li> <li>・グレード 6 級以上（バイエル修了程度）の演奏技術を修得する。</li> </ul>			
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の習熟度に応じた個人レッスンを実施し、本校独自のグレード制に沿って学びを進める。</li> <li>・習熟度に合わせたグレードを受験することができる。</li> </ul>			
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第 1 回：ガイダンス ピアノ学習の目的と心構え グレード設定。</p> <p>第 2 回：バイエルNo.1～No.9。正しい姿勢 椅子の高さ 指の位置。</p> <p>第 3 回：バイエルNo.10～No.20。指使い 正確な音の長さの理解について。</p> <p>第 4 回：バイエルNo.11～No.20。指使い 正確な音の長さの理解スラーについての確認。</p> <p>第 5 回：バイエルNo.21～No.30。タイについて 鍵盤の位置。</p> <p>第 6 回：バイエルNo.21～No.30。タイについて 鍵盤の位置の確認。</p> <p>第 7 回：バイエルNo.31～No.50。オクターブ記号 付点音符について 全音符から 8 分音符までの正確な音価。</p> <p>第 8 回：バイエルNo.31～No.50。オクターブ記号 付点音符について 全音符から 8 分音符までの正確な音価の確認。</p> <p>第 9 回：バイエルNo.51～No.79。スタカート アウフタクト ヘ音記号。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第 10 回：バイエルNo.51～No.79。分散形伴奏 ト長調。童謡任意弾き歌いの確認。</p> <p>第 11 回：バイエルNo.80.83.85。前打音 手の交差奏法 ニ長調・イ長調・ホ長調・ヘ長調。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第 12 回：バイエルNo.88.89.90。16 分音符の早い動き 16 分休符の意識。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第 13 回：バイエルNo.91.93.95。イ短調 6 度の奏法。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第 14 回：バイエルNo.96.97.98。前打音装飾音符 3 度の動き。童謡任意弾き歌い。</p> <p>第 15 回：バイエルNo.80～No.98.の中より任意の 2 曲 童謡の中より任意の 2 曲</p> <p>※ 個人指導を含む為、同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。</p>			
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>グレード試験合格を目標とし、ピアノ練習を毎日重ねることが基本である。</p> <p>練習方法を工夫し人前での演習に耐えうる精神を鍛い、毎週のレッスンで課された課題を復習・予習すること。</p>			
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>全音出版社「全訳バイエルピアノ教則本」、全音出版社「ブルグミュラー 25 の練習曲」</p> <p>「保育実用書シリーズ こどものうた 200」小林美実編 チャイルド社</p> <p>聖ヶ丘教育福祉専門学校発行「童謡曲集」・「マーチ曲集」</p>			
<p>&lt;教科書・参考資料&gt;</p> <p>幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p>			
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>【出欠席の確認】</p> <p>授業の最初に点呼をとる。所定のレッスン時間を満たさない場合は、遅刻・早退・または欠席として扱う。</p> <p>実技試験（各級で取得した点数の平均を最終成績とする） 100%</p> <p>60～69 点を「可」・70～79 点を「良」・80 点以上を「優」として単位を認定する。</p>			
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>爪は短く整え、ネイルアート等は控えること。演奏に支障をきたすと判断された場合はグレード試験を受験することができない場合もあるため留意すること。</p> <p>自身の楽譜、及び筆記用具（楽譜に記入する際は鉛筆が望ましい）を準備しレッスンに臨むこと。</p>			

倫理学			川久保学	
必修科目	講義	2単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	—			
担当教員の実務経験	高校教員37年 大学講師13年			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>生命倫理や医療倫理を中心に、倫理学のみならず法哲学や政治哲学、家族社会学や女性学等で広汎に論じられている応用倫理的な事柄を具体的に取り上げ、より身近な問題として倫理学に関わる機会を持つことにより、倫理学への関心を深め、公民及び職業人として必要な資質を養う。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>多面的多角的に物事を把握できる倫理的視座の涵養を通して、多様な価値観が交錯する現代社会における自律的な生き方・在り方の確立を図る。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>パワーポイントによる講義形式</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 功利主義と義務論（トロッコ問題/不幸の最小化/パンデミックの倫理学）</p> <p>第2回 リベラリズムとリーガルモラリズム（ハート・デブリン論争/輸血拒否事件）</p> <p>第3回 リバタリアニズムをめぐる問題（幸福追求権/人工妊娠中絶論争）</p> <p>第4回 平等主義リベラリズム（囚人のジレンマ/無知のヴェール/格差原理）</p> <p>第5回 障害者差別について考えるⅠ（パーソン論/優生思想/出生前診断）</p> <p>第6回 障害者差別について考えるⅡ（ケイパビリティ/多様性/NIMBY）</p> <p>第7回 死について考えるⅠ（臓器移植と脳死/安楽死と尊厳死）</p> <p>第8回 死について考えるⅡ（孤独死と無縁社会/実存哲学—ハイデガー）</p> <p>第9回 家族規範について考えるⅠ（尊属殺重罰規定/夫婦別姓問題）</p> <p>第10回 家族規範について考えるⅡ（法律婚と不倫/非嫡出子相続差別問題）</p> <p>第11回 女性のライフコースと結婚規範Ⅰ（母性保護論争・アグネス論争・負け犬論争）</p> <p>第12回 女性のライフコースと結婚規範Ⅱ（性別役割分業/結婚観の変容/リスク社会）</p> <p>第13回 エンハンスメント（ドーピング/リベラル優生思想/欲望と欲求）</p> <p>第14回 道徳性の発達（認知の発達/ハイッツのジレンマ/ケアの倫理）</p> <p>第15回 考え議論する道徳（モラルジレンマ/道徳の教科化—全面主義と特設主義）</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>授業後提示される課題レポート作成（60時間）</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>授業時に配布</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>なし</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>期末テスト50% 課題レポート50%</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

保育内容指導法			田村雅美	
必修科目	演習	1単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容指導法」）			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「保育内容指導法」）			
担当教員の実務経験	私立保育所にて保育士として勤務			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>1 幼児教育における育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された内容から保育の全体構造を学ぶ。</p> <p>2 幼児の発達や特性を知り主体的・対話的で深い学びに結び付く保育内容指導法の基礎を具体的な事例や視聴覚教材を使用し学習する。</p> <p>3 対象児の発達段階に適した指導案作成や教材研究を行う。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>1 幼稚園教育要領における幼児教育の基本と各領域のねらい内容を知り、保育の全体構造を理解する</p> <p>2 幼児の特性と発達を理解し幼児の具体的な保育内容を知り、保育を想定する</p> <p>3 保育計画・指導案の構成を理解し対象児の指導案を作成する。教材研究をする。</p> <p>4 学びと育ちの連続性（小学校への接続）を知る。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>グループワーク・体験学習</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 授業についてのオリエンテーション・「保育内容」とは何か</p> <p>第2回 子どもの発達と特性について</p> <p>第3回 幼稚園教育要領等における保育内容と指導のとらえかた・指導と援助について</p> <p>第4回 領域「健康」と指導法 子どもの身体性と遊び・健康と食育</p> <p>第5回 領域「人間関係」と指導法 子どもの発達と人との関係性・遊びと仲間</p> <p>第6回 領域「環境」と指導法 子どもと人的環境物的環境・子どもと自然環境</p> <p>第7回 領域「言葉」と指導法 子どもの言葉を育む環境・絵本教材研究</p> <p>第8回 領域「表現」と指導法 遊びの中で育つ感性・物を使った表現の教材研究</p> <p>第9回 総合的な保育内容指導</p> <p>第10回 個と集団の育ち 様々な保育形態と保育</p> <p>第11回 学びの連続性「小学校への接続」をふまえた保育</p> <p>第12回 子どもの姿と指導計画</p> <p>第13回 指導案の構成と作成</p> <p>第14回 世界の保育方法</p> <p>第15回 まとめ・筆記試験</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>各領域ごとの幼児の活動について予習</p> <p>授業での体験からの考察</p> <p>12回目以降今までの学びから幼児の具体的な活動の事例研究</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>はじめて学ぶ「保育内容の指導法」谷村宏子編著（ミネルヴァ書房）</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>幼稚園教育要領</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>定期試験（50％）演習内容の振り返り・提出物（50％）</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

保育実習事前事後指導 I (保育所)			清水かおり・田村雅美	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	複数
教員養成課程の区分				
保育士養成課程の区分	教育実践に関する科目「(保育実習事前事後指導 I)」			
担当教員の実務経験	清水：私立保育所にて保育士として勤務 認定こども園にて保育教諭として勤務 私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務 田村：私立保育所にて保育士として勤務			
<授業概要> ・保育実習 I (保育所) を実施する上で必要な事項について学び、実習の準備をしていく。 ・保育所の役割・機能、また保育者の役割と様々な年齢の子どもへの関わり方の配慮を知る。 ・乳児期から幼児期の成長プロセスを知り、子ども理解を深めると共に、保育士等の専門職の役割や職業倫理についても理解を深める。				
<授業の到達目標> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。				
<授業方法> 調べ学習を取り入れることで実習園の特徴を事前に捉え、実習のイメージがもてるようにしていく。				
<授業計画> (事前指導) 第 1 回 保育実習 I (保育所) の意義・目的・内容の理解と心構え 第 2 回 保育所の役割、保育の計画及び評価の理解、職員間の連携と協働 第 3 回 子どもの生活や遊びと保育環境/日誌の書き方①<環境図> 第 4 回 子どもの理解 (1) 乳児の発達と保育内容 第 5 回 子どもの理解 (2) 乳児の 1 日の流れ 第 6 回 子どもの理解 (3) 幼児の発達と保育内容 第 7 回 子どもの理解 (4) 幼児の 1 日の流れ 第 8 回 実習課題の立て方 第 9 回 子どもの観察と子どもへの援助や関わり/日誌の書き方①<時系列> 第 10 回 子どもの観察と子どもへの援助や関わり/日誌の書き方②<自由記述> 第 11 回 子どもの観察と子どもへの援助や関わり/日誌の書き方③<エピソード> 第 12 回 子どもの観察と子どもへの援助や関わり/日誌の書き方④<ねらいと省察・自己評価> 第 13 回 職業倫理等、実習に際する留意事項の確認 (事後指導) 第 14 回 実習の振り返り (1) 実習の総括と自己評価 第 15 回 実習の振り返り (2) 学びの共有と再確認、課題の明確化 (グループワーク)				
<授業時間外学修> テキスト内容や「実習の手引き」(本学の実習参考資料)を繰り返して読み、実習に関する規則や内容について理解しておく。 0 歳～就学前の子どもの発達について繰り返し確認しておく。				
<テキスト> 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』(小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子 わかば社 2017 年版)				
<参考資料> 「実習の手引き」(本学の実習参考資料) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針 (平成 29 年 3 月告示 厚生労働省)				
<成績評価> 課題・提出物 (100%)				
<備考> 保育実習指導 I (保育所) の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数の 3 分の 2 以上に出席すること、および保育実習 I (保育所) の単位修得が必要となる。				

保育実習事前事後指導 I (保育所)			清水かおり・田村雅美	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	複数
教員養成課程の区分				
保育士養成課程の区分	教育実践に関する科目「(保育実習事前事後指導 I)」			
担当教員の実務経験	清水：保育士・保育教諭 (保育所・認定こども園 5 年)、幼稚園教諭 (幼稚園 6 年)、乳幼児教育分野における国際協力 (2 年) 田村：保育士 (保育所 27 年)			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習 I (保育所) を実施する上で必要な事項について学び、実習の準備をしていく。</li> <li>・保育所の役割・機能、また保育者の役割と様々な年齢の子どもへの関わり方の配慮を知る。</li> <li>・乳児期から幼児期の成長プロセスを知り、子ども理解を深めると共に、保育士等の専門職の役割や職業倫理についても理解を深める。</li> </ul>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義・目的を理解する。</li> <li>2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。</li> <li>3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。</li> <li>4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。</li> </ol>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>調べ学習を取り入れることで実習園の特徴を事前に捉え、実習のイメージがもてるようにしていく。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>(事前指導)</p> <p>第 1 回 保育実習 I (保育所) の意義・目的・内容の理解と心構え  第 2 回 保育所の役割、保育の計画及び評価の理解、職員間の連携と協働  第 3 回 子どもの生活や遊びと保育環境/日誌の書き方①&lt;環境図&gt;  第 4 回 子どもの理解 (1) 乳児の発達と保育内容  第 5 回 子どもの理解 (2) 乳児の 1 日の流れ  第 6 回 子どもの理解 (3) 幼児の発達と保育内容  第 7 回 子どもの理解 (4) 幼児の 1 日の流れ  第 8 回 実習課題の立て方  第 9 回 子どもの観察と子どもへの援助や関わり/日誌の書き方①&lt;時系列&gt;  第 10 回 子どもの観察と子どもへの援助や関わり/日誌の書き方②&lt;自由記述&gt;  第 11 回 子どもの観察と子どもへの援助や関わり/日誌の書き方③&lt;エピソード&gt;  第 12 回 子どもの観察と子どもへの援助や関わり/日誌の書き方④&lt;ねらいと省察・自己評価&gt;  第 13 回 職業倫理等、実習に際する留意事項の確認</p> <p>(事後指導)</p> <p>第 14 回 実習の振り返り (1) 実習の総括と自己評価  第 15 回 実習の振り返り (2) 学びの共有と再確認、課題の明確化 (グループワーク)</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>テキスト内容や「実習の手引き」(本学の実習参考資料)を繰り返し読み、実習に関する規則や内容について理解しておく。</p> <p>0 歳～就学前の子どもの発達について繰り返し確認しておく。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』(小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子 わかば社 2017 年版)</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>「実習の手引き」(本学の実習参考資料)  幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)  保育所保育指針 (平成 29 年 3 月告示 厚生労働省)</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>課題・提出物 (100%)</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>保育実習指導 I (保育所) の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数の 3 分の 2 以上に出席すること、および保育実習 I (保育所) の単位修得が必要となる。</p>				

保育実習事前事後指導 I (施設)			小林根	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	複数
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	教育実践に関する科目「(保育実習事前事後指導 I)」			
担当教員の実務経験	介護系施設 16 年			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>保育所以外の児童福祉施設における実習を前に、施設実習の意義や目的を認識し、児童福祉施設の種別や役割機能の理解を深めるため、テキストや資料を活用しながらグループワークや車椅子介助などの演習を取り入れ、実習に向けての事前指導を行うとともに、オリエンテーション時の提出書類の作成、日誌の書き方、実習計画書の作成など、実習に必要な書類等の作成指導を行う。また、実習後は事後指導を行い、実習の振り返りの機会を持つとともに、実習報告書の作成と実習中の体験を発表する。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設実習の意義・目的を理解することができる。</li> <li>2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができる。</li> <li>3. 実習施設における子どもや障害児(者)の人権と最善の利益を考慮することができる。</li> <li>4. プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができる。</li> <li>5. 実習の実践・観察・記録の方法や内容について具体的に理解する。</li> <li>6. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。</li> </ol>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>座学だけでなく学生の能動的な学習を促進するため、実習施設の事前把握(調べ学習)を行うとともに、「障害者観」や養護の必要な「子ども観」をテーマにグループワークを実施する。また、その結果をレポートにまとめ、発表の機会を持ち、実習に備える。実習後は報告書を作成し、グループワークにおいて互いの体験を共有する機会を持つ。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 施設実習とは(施設実習の意義・目的について)</p> <p>第2回 施設実習の概要と全体像と施設実習の主な流れ</p> <p>第3回 施設の種別と目的、形態と役割機能(養護系施設と障害系施設、入所系施設と通所系施設)</p> <p>第4回 施設における保育士の業務・実習の内容と課題の明確化</p> <p>第5回 施設を利用する子ども・障害児(者)の理解・子どもの人権と最善の利益の考慮</p> <p>第6回 障害を持つ子どもの介助方法(車いす操作)</p> <p>第7回 障害を持つ人の歩行介助(歩行介助・白杖体験)</p> <p>第8回 実習に際しての留意事項(プライバシーの保護と守秘義務・権利擁護)</p> <p>第9回 実習に向けての事前学習・施設実習計画書の作成と目標の立て方。</p> <p>第10回 記録(日誌)の書き方(実習における観察、記録及び評価の方法)</p> <p>第11回 施設種別ごとの日課と業務・実習の心得と施設職員との関わり</p> <p>第12回 児童施設における感染症予防とリスクマネジメント</p> <p>第13回 事前オリエンテーションと実習施設の把握</p> <p>第14回 実習直前の確認と指導、及び実習後の日誌返却・提出の確認と指導</p> <p>第15回 事後指導における実習の総括と課題の明確化・振り返りと自己評価・実習報告書作成</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習ノート作成と提出：テキストの中で授業に関連する部分(10箇所)を事前に指定し、授業前までに感想や気づいたことを書いてもらうノートを作成する。予習ノートの進み具合を確認するため、定期的に提出と返却実施する。</li> <li>・施設実習計画書(下書き)の提出を求め、添削の上授業内にて返却し清書させる。清書したものはオリエンテーション当日に他の書類とともに施設へ持参するよう指導している。</li> <li>・本校指定の書式で実習の心構えとなる「はじまりにあったって」の提出を求め、添削の上、授業内で返却し清書させる。実習初日に提出するよう指導する。</li> </ul>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>施設実習ガイド(ミネルヴァ書房)</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>2023年度実習の手引き(聖ヶ丘教育福祉専門学校実習部)</p> <p>保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>予習ノートの提出(60%) 実習計画書(10%) 始まりに当たって(10%) 実習報告書(10%) 実習振り返りシート(10%)</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>施設実習指導 I において、事前指導の3分の2以上を出席しなければ施設実習を行うことはできない。また、単位認定のためには施設実習指導 I の事後指導を受けなければならない。</p>				

保育実習指導Ⅱ（保育所）			清水かおり・田村雅美	
選択科目	演習	1単位	2年次	複数
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	教育実践に関する科目「(保育実習指導Ⅱ)」			
担当教員の実務経験	清水：私立保育所にて保育士として勤務 認定こども園にて保育教諭として勤務 私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務 田村：私立保育所にて保育士として勤務			
<b>&lt;授業概要&gt;</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能について保育実習Ⅱを通して理解を深める実習の意義と目的を理解する。</li> <li>2. 乳幼児の一人ひとりに応じたかかわりと援助方法と、集団やクラス運営における援助方法を明らかにすることで乳幼児理解と保育の理解について学ぶ。</li> <li>3. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善と環境構成について実践や事例を通して学ぶ。</li> <li>4. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解するとともに、保育士としての自己の課題を明確化する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</li> <li>6. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、乳幼児の保育実践力を培うと共に、保護者支援、家庭地域との連携について学ぶ。</li> </ol>				
<b>&lt;授業の到達目標&gt;</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。</li> <li>2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。</li> <li>3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。</li> <li>4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</li> </ol>				
<b>&lt;授業方法&gt;</b>				
<p>随時ディスカッションなどの意見交換を取り入れ、実習や今後の実践への期待や不安を他者と共有することによって保育現場での学びをより具体的にしていく。</p> <p>模擬保育を取り入れ、責任実習にむけた準備をより具体的に行う。</p>				
<b>&lt;授業計画&gt;</b>				
<p>第1回 保育実習Ⅱの意義・目的・内容の理解と心構え</p> <p>第2回 実習課題の立て方と実践に向けて</p> <p>第3回 保育実習による総合的な学び（1）子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解</p> <p>第4回 保育実習による総合的な学び（2）子どもの保育と保護者支援</p> <p>第5回 保育の実践力（1）子どもの状態に応じた適切な関わり</p> <p>第6回 保育の実践力（2）保育の知識・技術を活かした保育実践について考える</p> <p>第7回 計画と観察、記録、自己評価（1）子どもの実態に沿った具体的な指導計画の立案の仕方</p> <p>第8回 計画と観察、記録、自己評価（2）子どもの実態に沿った具体的な指導計画の立案</p> <p>第9回 計画と観察、記録、自己評価（3）立案した指導計画の実践（模擬保育）</p> <p>第10回 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善（1）保育実習Ⅰの課題から</p> <p>第11回 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善（2）学びを深める様々な記録形式</p> <p>第12回 保育士の専門性と職業倫理等、実習に際する留意事項の確認</p> <p>第13回 実習の振り返り（1）実習の総括と自己評価</p> <p>第14回 実習の振り返り（2）学びの共有と再確認（グループワーク）</p> <p>第15回 実習の振り返り（3）課題の明確化（グループワーク）</p>				
<b>&lt;授業時間外学修&gt;</b>				
<p>保育実習Ⅰの実習日誌を見直し、保育所の1日の流れや子どもの姿と保育内容との結びつきを学ぶ。子どもの姿に合った保育の実践に向けて、テキストや保育図書などを活用しながら、年齢や興味関心に相応しい保育内容を考える。</p>				
<b>&lt;テキスト&gt;</b>				
『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子 わかば社 2017年版）				
<b>&lt;参考資料&gt;</b>				
<p>「実習の手引き」（本学の実習参考資料）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p>				
<b>&lt;成績評価&gt;</b>				
課題・提出物（100%）				
<b>&lt;備考&gt;</b>				
保育実習指導Ⅱ（保育所）の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数の3分の2以上に出席すること、および保育実習Ⅱ（保育所）の単位修得が必要となる。				

保育実習Ⅱ（保育所）			清水かおり・田村雅美	
選択科目	演習	2単位	2年次	複数
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	教育実践に関する科目「(保育実習Ⅱ)」			
担当教員の実務経験	清水：私立保育所にて保育士として勤務 認定こども園にて保育教諭として勤務 私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務 田村：私立保育所にて保育士として勤務			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>保育所の役割や機能について、乳幼児理解と個に応じた援助について学ぶ 集団やクラス運営における援助の仕方について学ぶ 計画と環境構成について実践を交えながら理解を深める 実際の家庭・地域との連携について見て学ぶ</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。</li> <li>2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育及び子育て支援について総合的に理解する。</li> <li>4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。</li> <li>6. 実習における自己の課題を明確化する。</li> </ol>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>保育所において実際に保育を観察、参加し、実践的に保育を学習する。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 養護と教育が一体となって行われる保育</li> <li>(2) 保育所の社会的役割と責任</li> </ol> </li> <li>2. 観察に基づく保育の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの心身の状態や活動の観察</li> <li>(2) 保育士等の援助や関わり</li> <li>(3) 保育所の生活の流れや展開の把握</li> </ol> </li> <li>3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育</li> <li>(2) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援</li> <li>(3) 関係機関や地域社会との連携・協働</li> </ol> </li> <li>4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解</li> <li>(2) 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価</li> </ol> </li> <li>5. 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 多様な保育の展開と保育士の業務</li> <li>(2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理</li> </ol> </li> <li>6. 自己の課題の明確化</li> </ol>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>保育実習Ⅱのスケジュールを把握し、日々の省察を日誌にまとめて翌日の実習にいかす。 これまでの実習を省察し、自らの課題についてまとめる。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子 わかば社 2017年版）</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>「実習の手引き」（本学の実習参考資料） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>実習園評価（40%）、日誌（50%）、実習報告書（10%）</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>保育実習Ⅱの実施は、保育実習指導Ⅱの事前指導の出席要件が授業回数の3分の2以上を満たしていなければならない。 保育実習指導Ⅱと相互の履修認定をもって単位認定の要件とする。</p>				

保育実習Ⅰ（保育所）			清水かおり・田村雅美	
必修科目	演習	2単位	1年次	複数
教員養成課程の区分	教育実践に関する科目「(保育実習Ⅰ)」			
保育士養成課程の区分				
担当教員の実務経験	清水：保育士・保育教諭（保育所・認定こども園5年）、幼稚園教諭（幼稚園6年）、乳幼児教育分野における国際協力（2年） 田村：保育士（保育所27年）			
<p>&lt;授業概要&gt;          保育士資格取得のため、学外の保育実習現場において実習体験を行う。          保育所における保育者の役割と、0歳から5歳児まで年齢の異なる子どもへの関わり方を学ぶ。          乳児期から幼児期の子どもと実際に関わり、子ども理解を深める。          保育所の社会的役割を学ぶ。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。</li> <li>4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</li> </ol>				
<p>&lt;授業方法&gt;          保育所において実際に保育を観察、参加し、実践的に保育を学習する。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割と機能             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり</li> <li>(2) 保育所保育指針に基づく保育の展開</li> </ol> </li> <li>2. 子どもの理解             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの観察とその記録による理解</li> <li>(2) 子どもの発達過程の理解</li> <li>(3) 子どもへの援助や関わり</li> </ol> </li> <li>3. 保育内容・保育環境             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育の計画に基づく保育内容</li> <li>(2) 子どもの発達過程に応じた保育内容</li> <li>(3) 子どもの生活や遊びと保育環境</li> <li>(4) 子どもの健康と安全</li> </ol> </li> <li>4. 保育の計画・観察・記録             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解</li> <li>(2) 記録に基づく省察・自己評価</li> </ol> </li> <li>5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育士の業務内容</li> <li>(2) 職員間の役割分担や連携・協働</li> <li>(3) 保育士の役割と職業倫理</li> </ol> </li> </ol>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;          保育実習指導Ⅰで学んできた実践的対応や理論的枠組を理解できているか振り返る。          基本的な保育所の役割や、各実習先の概要について予習・復習して臨む。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;          『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子 わかば社 2017年版）</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;          「実習の手引き」（本学の実習参考資料）          幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）          保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;          実習園評価（40%）、日誌（50%）、実習報告書（10%）</p>				
<p>&lt;備考&gt;          保育実習Ⅰ（保育所）の実施は、保育実習指導Ⅰ（保育所）の事前指導の出席要件が授業回数の3分の2以上を満たしていなければならない。          保育実習指導Ⅰ（保育所）と相互の履修認定をもって単位認定の要件とする。</p>				

保育実習 I (施設)			小林根	
必修科目	実習	2 単位	1 年次	複数
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	教育実践に関する科目「(保育実習 I)」			
担当教員の実務経験	介護系施設 16 年			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>児童福祉施設等での実習を通じて、養護の必要な子どもや障害児（者）と関わり、施設保育士としての確かな知識、技術を習得する。また、他の専門職との連携や生活環境の整備、地域社会における施設の役割機能について総合的に学ぶ。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解することができる。</li> <li>2. 観察や関りを通して養護の必要な子どもや障害児（者）の理解を深めることができる。</li> <li>3. 養護の必要な子どもや障害児（者）及びその家族への支援方法について理解することができる。</li> <li>4. 施設保育士の業務内容や職業倫理について理解することができる。</li> </ol>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>本校が指定する児童福祉施設や児童相談所（一時保護所）に学生を配当し、施設保育士の指導を受けながら児童・障害児（者）の支援方法の実際を学ぶ。</p>				
<p>&lt;実習計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 施設における子ども・利用者の生活と保育士の援助や関わりを知る。</li> <li>(2) 施設の生活と一日の流れから児童福祉施設の役割・機能を学ぶ。</li> </ol> </li> <li>2. 子ども・利用者の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの観察とその記録を通して理解する。</li> <li>(2) 個々の状態に応じた援助や関わりを理解する。</li> </ol> </li> <li>3. 施設における子ども・利用者の生活と環境。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 計画に基づく活動や援助の実際を学ぶ。</li> <li>(2) 子ども・利用者の心身の状態に応じた生活と対応の方法について学ぶ。</li> <li>(3) 子どもの活動と環境を知る。</li> <li>(4) 健康管理、安全の確保を理解する。</li> </ol> </li> <li>4. 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 支援計画の理解と活用の方法を理解する。</li> <li>(2) 記録に基づく省察・自己評価ができる。</li> </ol> </li> <li>5. 専門職としての保育士の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 施設保育士の業務内容を理解する。</li> <li>(2) 職員間の役割分担や連携の方法を学ぶ。</li> <li>(3) 保育士の社会的役割と職業倫理を学ぶ。</li> </ol> </li> </ol>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>事前オリエンテーションにて施設の概要を把握し、実習に備えた準備をしておく。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>施設実習ガイド（ミネルヴァ書房）</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>2023 年度実習の手引き（聖ヶ丘教育福祉専門学校 実習指導部）  保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>施設評価 40% 日誌内容 50%、実習報告書 10%</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>施設実習 I の単位取得のためには、施設実習指導 I の事前指導を 3 分の 2 以上出席していなければならない。実習終了後は施設実習指導において事後指導を受けなければならない。</p>				

保育原理Ⅱ			竹内あゆみ	
選択科目	講義	2単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目			
担当教員の実務経験	幼稚園教諭3年			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>保育原理Ⅰでの基礎的な学びを活かし、それを取り入れて自分の保育観を語ることのできる力を身につける。また、保育原理Ⅱでは国内外の多様な保育実践を学ぶとともに、特に関心のある人物に着目し、その保育者・教育者の功績を追求する。そのプロセスを通して、自分が保育の中で大切にしたいことを明確にできるよう、調べ学習を行う。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>① 知識面 国内外の多様な保育実践を学び、様々な保育環境や方法があることを知る  ② 技術面 保育原理Ⅰの学びを踏まえ、保育実践と結びつけて人に説明できる力がつく  ③ 理念・理解 日本における保育・幼児教育で大切にすべきことを理解する</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を聴講し、保育原理Ⅰの学びを振り返りながら自分の保育観をまとめる力をつける</li> <li>・調べ学習（保育の歴史を振り返り、これまでの学びで関心を持った人物についてレポートを書く）</li> </ul>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：保育原理Ⅱとは（オリエンテーション）、保育原理Ⅰの振り返り  第2回：これからの幼児教育に求められること  第3回：DVD視聴「モンテッソーリこどもの家」、見守る保育の意義と課題  第4回：DVD視聴「フリードリッヒ・フレーベル」、教育玩具について  第5回：子どもの発達と玩具① 積み木の世界  第6回：子どもの発達と玩具② 幼児  第7回：子どもの発達と玩具③ 0. 1. 2歳児  第8回：子育て支援の種類と内容  第9回：子育て支援センターにおける保育実践  第10回：レポート課題① テーマの見つけ方、レポート作成の手順と方法  第11回：レポート課題② 情報収集と概要作り  第12回：レポート課題③ レポート作成  第14回：日本の保育の現状と課題について  第15回：総まとめ、定期試験</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業内で事前学習内容を提示するので教科書の指定箇所を熟読すること。（2時間）</li> <li>・毎回の授業内で事後学習内容を提示するので配布プリント等の課題を考えること。（2時間）</li> </ul>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省）  『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省）  『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>プリント・資料を配布する。</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>定期試験（40%）、レポート課題（40%）、授業への取り組み（20%）※リフレクションシート含む  ・毎回の授業内でGoogleフォームを使用したリフレクションシートを記入して提出すること。  それを踏まえ、翌週の授業で振り返りを行い、全体にフィードバックする。</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>各授業の前に45分程度の「準備学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。</p>				

保育原理			竹内あゆみ	
必修科目	講義	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「保育原理」）			
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（3年）			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>保育の基本、歴史的変遷や思想について学んだ上で、保育の現状と課題について考察し、学びを踏まえて保育実践を理解できる力を身に付ける。また、保育の仕事について具体的に学びながら、保育者としてあるべき姿を追求して自己課題を見出せるような内容とする。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>① 知識面 保育所保育指針で保育の原理原則を学ぶと共に、歴史的変遷や現状の保育の課題を知る。  ② 技術面 子どもの発達に合わせた保育内容について、理論と気づきをつなげて表現できる。  ③ 理念・理解 子どもの最善の利益のための保育とは何か、理論に基づいた理解ができる。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を聴講し、教科書のワークを解いていく授業</li> <li>・授業で学んだことをもとに調べ学習を行う</li> </ul>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 保育原理とは（オリエンテーション）  第2回 保育の意義及び目的  第3回 保育に関する法令及び制度  第4回 保育所保育指針における保育の基本①  第5回 保育所保育指針における保育の基本②  第6回 保育所保育指針における保育の基本③  第7回 保育所保育指針における保育の基本④  第8回 子育て支援について学ぶ  第9回 保育の思想と歴史的変遷① 諸外国の保育の思想と歴史  第10回 保育の思想と歴史的変遷② 日本の保育の思想と歴史  第11回 先人に学ぶ（1）フリードリッヒ・フレーベル  第12回 教育玩具を学ぶ  第13回 先人に学ぶ（2）倉橋惣三 - 児童中心主義の保育を探る -  第14回 諸外国・日本の保育の現状と課題  第15回 総まとめ、定期試験</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業内で事前学習内容を提示するので教科書の指定箇所を熟読すること。（2時間）</li> <li>・毎回の授業内で事後学習内容を提示するので配布プリント等の課題を考えること。（2時間）</li> </ul>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>Work で学ぶ保育原理（平成31年 わかば社）</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</li> <li>・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）</li> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</li> </ul>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>定期試験（60%）、授業への取り組み（40%）※リフレクションシート含む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業内で Google フォームを使用したリフレクションシートを記入して提出すること。それを踏まえ、翌週の授業で振り返りを行い、全体にフィードバックする。</li> </ul>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業前に45分程度の「事前学習」内容の予習をし、授業後には復習をすること。</li> </ul>				

表現			鈴木恵利子	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分				
保育士養成課程の区分				
担当教員の実務経験		幼稚園教諭（幼稚園・39年）		
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>表現とは心が開いてそこから出てくるものでそれを育ていくのが表現教育である。「子どもが安心して心を開き、勇気や自信をもって表現する力」を育むためには、保育者は子どもが発する表出・表現をどのように捉え、受容し、援助していったらよいかと考え合い、探求していききたい。更に保育者を目指すところの、表現者としての自分を見つめることをも促したい。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>教育・保育要領にある「表現」の内容を理解・修得するとともに、子どもの内面の育ちを豊かに育むための環境や保育の在り方を講義・実技を通して考え、保育の実践につながるものとなるよう深める。また、「表現」とは何かについて押さえ、子どもの年齢・発達・適性に合わせた表現活動を学ぶ。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>前回の振り返りをし、テキストの内容に準じて、講義を進める。必要に応じて、課題学習・グループワークを行う。協働的な体験を重視しながら学びを深めていく。</p> <p>授業の最後にリフレクションシートにて振り返りを各自行う。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーション・表出から表現へ・授業の内容と方法  第 2 回：保育内容・領域「表現」について  第 3 回：表出から表現へ 表出の喜びと表現の喜び・講義と実技  第 4 回：自然を感じる心と感性、自然の中で表現あそび  第 5 回：表現と感性、「あrawし」と「うけとめ」  第 6 回：子どもの心を考える、生活の中で子どもの表現  第 7 回：心の表現と受け止める心をエピソードから学ぶ  第 8 回：「描きあrawし」の楽しさ・リズムで遊ぶ  第 9 回：「手のひら絵本」作り お話作り  第 10 回：「手のひら絵本」発表  第 11 回：新聞紙のあそび 教材研究から部分実習、責任実習指導案作り  第 12 回：指導案をもとに模擬授業  第 13 回：総合的な表現活動、ごっこ遊びから劇あそびへと  第 14 回：総合的な表現活動、言葉、身体で表現する楽しさ・伝え合う喜び  第 15 回：まとめ・テスト</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>手のひら絵本作り・新聞を使った模擬授業指導案作成</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>実践『心ふれあう子どもと表現』 松家まきこ・鈴木範之 編 みらい 2021年2月初版</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>授業者の配布資料  大場牧夫著『表現原論』、萌文書林、2008  佐々木正美著『子どもの心が見える本』2001年初版  幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）  保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）  幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>筆記試験（60%） 毎回の授業振り返り（20%） 課題・提出物（20%）  を総合的に評価する</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

発達心理学			密城吉夫	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目(「保育の心理学」)			
担当教員の実務経験	—			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>子どもの発達には人的環境や物的環境を通して多様な相互作用の中で行われる。保育士は子どもとの相互作用のみならず、保育者として関わる援助を通して生涯にわたっての発育、成長も考慮しなければならない。発達心理学 I では、受精から誕生、その後の身体発達、精神機能(分化と統合の過程、自我の発達、社会意識)に触れ、発達の特徴や傾向を学んでいく。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 胎芽期から児童期までの発達を科学的な視点でとらえる。</li> <li>2 発達の段階をたどる過程で、思考の変化や相互作用を児童期に至るまで学習する。</li> <li>3 発達を時系列でとらえ、子どもの身体的機能と思考を理解する。</li> </ol>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>パワーポイントや映像資料を用いて視覚的に理解し易い内容を提供する。教科書やプリントの進捗状況をその都度明確にし、振り返りの際にも生徒が復習し易い状況となるように心がける。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回:オリエンテーション、テキスト・講義内容の説明、胚期  第2回:胎芽期、胎児期  第3回:遺伝と環境  第4回:心理学の変遷  第5回:視覚の発達、視覚断崖  第6回:感覚間の協応、共鳴動作  第7回:原始反射とメカニズム  第8回:動物実験(刷り込み、条件づけ、学習性無力、愛着)、大きさの恒常性、形の恒常性  第9回:原始反射  第10回:自己認知  第11回:指さし行動(Joint Attention)  第12回:同化と調節、相互作用、感覚的知能の段階、前概念的思考の段階、直観的思考の段階(前半)  第13回:直観的思考の段階(後半)  第14回:具体的操作の段階、形式的操作の段階  第15回:振り返り、試験</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>各回の事前・事後として予習・復習を行うようにしてください。講義の冒頭には、前回の内容を確認してから新しい単元に入ります。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>繁多進監修、向田久美子・石井 正子編著『新 乳幼児発達心理学』福村出版</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>必要に応じてプリントを配布。</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>参加態度(40%)、試験(60%)を総合して判断する。  試験については、60 点以上を合格点とする。</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>配布されるプリントをまとめる文具を各自で用意。</p>				

乳児保育 B			井上めぐみ	
必修科目	演習	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(乳児保育 B)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(乳児保育 B)」			
担当教員の実務経験	保育所 8 年 幼稚園 2 年			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>この授業では乳児に対する保育の方法を、演習と講義を通して具体的に学んでいく。3 歳未満児は大人の助けが必要であるが、子どもであってもひとりの人間として意志や思いを尊重される存在であるという子ども観を身に着けていくことが目的である。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>①乳児の発育・発達のプロセスと特性をふまえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 ②乳児の生活やあそび、保育の方法と環境について理解する。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>演習と講義を通して具体的に乳児との関わりを学ぶ。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 子どもを理解した援助 受容的・応答的な関わり 第 3 回 だっことおんぶ 第 4 回 おむつ交換とおむつはずれ 第 5 回 衣服の着脱 第 6 回 沐浴 第 7 回 授乳 第 8 回 離乳食についての基礎知識 第 9 回 遊びと環境 第 10 回 手作りおもちゃ制作 第 11 回 乳児保育における衛生管理と安全管理 第 12 回 乳児保育における配慮の実際 第 13 回 事例検討 (グループディスカッション) 第 14 回 まとめ 第 15 回 期末試験</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>レジュメやノートの振り返りをすること</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>『はじめて学ぶ 乳児保育』志村聡子編 同文書院</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>適宜授業内で紹介する</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>期末試験 60% 提出物 40%</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

乳児保育 A			井上めぐみ	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(乳児保育 A)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(乳児保育 A)」			
担当教員の実務経験	保育所 8 年 幼稚園 2 年			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>この授業は、次の 3 つから構成される。①現代までの乳児保育における社会的ニーズや、その意義等の理解。②乳児期の子どもの発達と成長とそれをふまえた保育者の援助についての学び。③保育の記録や共に子どもの育ちを支える大人同士の連携についての学び。講義を通して、乳児保育の基本を理解していくことが目的である。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>①現代社会における子育て環境の現状と課題を知り、その上で乳児保育の意義・目的と役割について理解する。</p> <p>②3 歳未満児の発達と成長、特性をふまえた保育について理解する。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>講義形態を中心とする。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 乳児保育の意義・目的とその役割</p> <p>第 3 回 乳児が生活する場の現状と課題</p> <p>第 4 回 保育所保育指針における乳児保育の内容</p> <p>第 5 回 保育所保育指針における乳児保育のポイント</p> <p>第 6 回 乳児の発達と特性① (生理的早産・アタッチメント)</p> <p>第 7 回            〃            ② (身体的発達・ことばの発達)</p> <p>第 8 回            〃            ③ (敏感期)</p> <p>第 9 回 0 歳児の育ち (DVD 視聴)</p> <p>第 10 回 1 歳児の育ち (〃)</p> <p>第 11 回 2 歳児の育ち (〃)</p> <p>第 12 回 デイリープログラムと記録・評価</p> <p>第 13 回 乳児保育における連携と協働</p> <p>第 14 回 まとめ</p> <p>第 15 回 期末試験</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>レジュメやノートの振り返りをする</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>『はじめて学ぶ 乳児保育』志村聡子編 同文書院</p> <p>『保育所保育指針解説』厚生労働省</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>参考資料等、適宜授業内で紹介する</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>期末試験 60% 提出物 40%</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

日本国憲法			宮田史彦	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	—			
担当教員の実務経験	—			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>日本国憲法の成立とその理念について概説し、基本的人権の特性や問題点について、条文の解釈に触れながら社会生活で生じている事象や判例を通じて検証する。また、人権保障のための統治機構の機能や平和主義を基調とする安全保障について考察する。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>日本国憲法を学ぶことで人権感覚を養い、他への思いやりと奉仕の精神をもって保育・幼児教育の実践にあたるとともに、社会におけるさまざまな事象に対して自分の考えをもち、他と協力して生きていく力を身につける。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>講義</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第 1 回 憲法と立憲主義：法体系と憲法の位置づけ、立憲主義の意義について</p> <p>第 2 回 日本国憲法の成立過程と基本原理：大日本帝国憲法（明治憲法）と日本国憲法</p> <p>第 3 回 基本的人権の原理：人権の主体と人権の諸形式</p> <p>第 4 回 幸福追求権と自己決定権：憲法第 13 条と新しい人権</p> <p>第 5 回 法の下の平等：憲法第 14 条をめぐる判例からみる課題</p> <p>第 6 回 自由権Ⅰ：思想・良心の自由，信教の自由</p> <p>第 7 回 自由権Ⅱ：自由に学び，表現する権利</p> <p>第 8 回 自由権Ⅲ：経済活動の自由</p> <p>第 9 回 社会権Ⅰ：生存権をめぐる問題</p> <p>第 10 回 社会権Ⅱ：教育を受ける権利，労働者の権利</p> <p>第 11 回 統治機構Ⅰ：国を治める仕組み（国会と選挙制度）</p> <p>第 12 回 統治機構Ⅱ：国を治める仕組み（内閣と地方自治）</p> <p>第 13 回 統治機構Ⅲ：国を治める仕組み（裁判所の役割と裁判員制度）</p> <p>第 14 回 平和主義と国を守ること：安全保障とは何か</p> <p>第 15 回 講義の振り返り，試験とまとめ</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>講義後のまとめと各回の課題についてレポート作成（調べ学修）し期限まで提出</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>・橋本勇人 編『保育と日本国憲法』（みらい社）ISBN978-4-86015-460-8</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>・幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）</p> <p>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>・期末試験：70%</p> <p>・各授業で提示する課題レポート：30%</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

特別支援教育 B			岩羽 紗由実	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目 (特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解)			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目 (「障害児保育」)			
担当教員の実務経験	小学校教諭 (小学校・11 年)			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>本授業では、特別支援教育の教育・保育の理論・制度を理解し、教育・保育の展開に必要なアセスメント方法、支援計画の作成方法、教育・保育現場での実践的な支援方法を学ぶ。 特別支援教育・保育の歴史、インクルーシブ教育・保育の理念と意義、家庭や関連機関との連携を学ぶ。個別の特性や心身の発達に応じた援助や配慮につなげるために、障害や発達特性、日常生活での配慮や環境設定の仕方、個別支援計画の作成、複合的なニーズへの対応等を学ぶ。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>障害児その他の特別な配慮を要する子どもの、保育における計画の作成や具体的な支援方法について、家庭への支援や関係機関とその連携・協働について、保育に関する現状と課題について理解する。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>(1) レビューライト (前回の復習)</p> <p>(2) 講義 (一例) ICT を活用し、動画を視聴する。(視覚的アプローチ) 動画から学んだ事を自分なりにリフレクションシートにまとめる。 そして、全体討議もしくはグループワークで、 自分が保育者としてどう考えるべきか、どう対応すべきなのか、ということを話し合う。 最後に、人の意見を聞きどう考えたかなど含めて、リフレクションシートにまとめる。</p> <p>(3) サマリーライト (本時の復習)</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：支援の方法の基本 教育課程(通級、訪問、自立活動)</p> <p>第2回：支援の方法とケーススタディ (発達障害)</p> <p>第3回：支援の方法とケーススタディ (知的障害)</p> <p>第4回：支援の方法とケーススタディ (肢体不自由)</p> <p>第5回：支援の方法とケーススタディ (病弱児 医療的ケア児)</p> <p>第6回：支援の方法とケーススタディ (視覚障害)</p> <p>第7回：支援の方法とケーススタディ (聴覚障害と言語障害)</p> <p>第8回：支援の方法とケーススタディ (重症心身障害児)</p> <p>第9回：支援の実際 (障害児のアセスメント)</p> <p>第10回：支援の実際 (支援体制づくり)</p> <p>第11回：支援の実際 (ムーブメント教育・療法)</p> <p>第12回：幼稚園 保育園 認定こども園での実際 (環境 人間関係 健康安全)</p> <p>第13回：その他の教育的ニーズをもつこどもの理解と支援 外国につながる子ども・貧困等</p> <p>第14回：障害のある子どもの保育に関わる現状と課題</p> <p>第15回：まとめ 確認試験</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>学んだ障害中から、自分の興味・関心のある障害について、調べまとめる。(調べ学習) そして、その子どもに対してどのような支援が必要なのか考え、サポート方法をまとめ発表する。 (発表・プレゼンテーション) (例：聴覚障害について調べ、その子どもと円滑にコミュニケーション取るために手話をいくつか学び、紹介する。子どもと歌える手話の歌を歌う。等)</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>特別支援教育・保育概論—特別な配慮を要する子どもの理解と支援 尾野明美ら編著 萌文書林 2021 改訂新版第3刷</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>アクティブラーニング対応 エピソードから読み解く障害児保育 尾野明美ら編著 萌文書林 2020 第3版第1刷</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>授業態度と参加の積極性(30%) / 各授業回レポート&lt;リフレクションシート&gt;(40%) / 試験(30%)</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

特別支援教育 A			岩羽 紗由実	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目 (特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解)			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目(「障害児保育」)			
担当教員の実務経験	小学校教諭(小学校・11年)			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>本授業では、特別支援教育の教育・保育の理論・制度を理解し、教育・保育の展開に必要なアセスメント方法、支援計画の作成方法、教育・保育現場での実践的な支援方法を学ぶ。特別支援教育・保育の歴史、インクルーシブ教育・保育の理念と意義、家庭や関連機関との連携を学ぶ。個別の特性や心身の発達に応じた援助や配慮につなげるために、障害や発達特性、日常生活での配慮や環境設定の仕方、個別支援計画の作成、複合的なニーズへの対応等を学ぶ。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>特別支援教育・障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその教育・保育について理解する。そして、個々の特性や心身の発達等に応じた支援や配慮について理解する。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>(1) レビューライト(前回の復習)</p> <p>(2) 講義(一例) ICTを活用し、動画を視聴する。(視覚的アプローチ) 動画から学んだ事を自分なりにリフレクションシートにまとめる。 そして、全体討議もしくはグループワークで、 自分が保育者としてどう考えるべきか、どう対応すべきなのか、ということを話し合う。 最後に、人の意見を聞きどう考えたかなど含めて、リフレクションシートにまとめる。</p> <p>(3) サマリーライト(本時の復習)</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション/障害の概念と障害児の教育・保育の歴史の変遷</p> <p>第2回 障害児保育の基本/障害のある子どもの地域・社会への参加</p> <p>第3回 インクルーシブ保育・教育システムについて</p> <p>第4回 障害の理解と支援(知的障害)</p> <p>第5回 障害の理解と支援(肢体不自由)</p> <p>第6回 障害の理解と支援(視覚障害)</p> <p>第7回 障害の理解と支援(聴覚障害:言語障害)</p> <p>第8回 障害の理解と支援(重症心身障害児)</p> <p>第9回 障害の理解と支援(病弱児 医療的ケア児)</p> <p>第10回 障害の理解と支援(発達障害(学習障害 LD 注意欠陥多動性障害 ADHD))</p> <p>第11回 障害の理解と支援(発達障害(自閉症スペクトラム障害 ASD))</p> <p>第12回 障害の受容について</p> <p>第13回 保護者や家族に対する理解と支援</p> <p>第14回 関係機関の連携 特別支援教育コーディネーターと機関(幼稚園 保育園 小学校 特別支援学校 発達支援センター 医療・保健など)連携しながらの支援体制の構築</p> <p>第15回: まとめ 確認試験</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>学んだ障害中から、自分の興味・関心のある障害について、調べまとめる。(調べ学習) そして、その子どもに対してどのような支援が必要なのか考え、サポート方法をまとめ発表する。 (発表・プレゼンテーション) (例:聴覚障害について調べ、その子どもと円滑にコミュニケーション取るために手話をいくつか学び、紹介する。子どもと歌える手話の歌を歌う。等)</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>特別支援教育・保育概論—特別な配慮を要する子どもの理解と支援 尾野明美ら編著 萌文書林 2021 改訂新版第3刷</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>アクティブラーニング対応 エピソードから読み解く障害児保育 尾野明美ら編著 萌文書林 2020 第3版第1刷</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>授業態度と参加の積極性(30%) / 各授業回レポート&lt;リフレクションシート&gt;(40%) / 試験(30%)</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

体育実技			小川佳代子	
必修科目	実技	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	—			
担当教員の実務経験	大学などでの体育実技授業（20 年） 健康運動指導士（病院：11 年 企業や自治体：20 年） 子どもたちへの運動指導（日黒学校健康トレーナー及び支援員：14 年）			
<b>&lt;授業概要&gt;</b> 仲間とコミュニケーションを図りながらスポーツを楽しむことで、心身の調子を整える。また、自身の身体状況を認識し、生活習慣等の改善を行うことで、その機能の向上を図る。そして、スポーツを生涯楽しむことができるよう基礎技術・ルール・安全に行うための方法などを学ぶ。				
<b>&lt;授業の到達目標&gt;</b> 以下の知識・能力を習得することを目標とする。 ①仲間とコミュニケーションを図り、共感力を高め、スポーツを楽しむことができる。 ②自身の身体状況を認識し、改善策を身につけ習慣化を図ることで、その機能の向上を目指す。 ③さまざまなスポーツの基礎技術・ルール・審判方法を身につけ、仲間とゲームができる。 ④スポーツを安全に行うための方法がわかる。				
<b>&lt;授業方法&gt;</b> 対面での実技（アリーナ）				
<b>&lt;授業計画&gt;</b> <b>第 1 回 ガイダンス</b> : 授業内容の説明や注意事項、評価方法について説明する。また、この授業で特に学びたい内容や要望などを確認する。 <b>第 2 回 レクリエーションスポーツ①</b> : 身近な用具を使ったレクリエーションスポーツを楽しみ、仲間とコミュニケーションを図る。また、運動時における水分補給の方法を学ぶ。 <b>第 3 回 レクリエーションスポーツ②</b> : ボールを使ったレクリエーションスポーツを楽しむ。また、簡単な身体機能チェックで自身の身体状況を認識し、改善策を考える。 <b>第 4 回 レクリエーションスポーツ③</b> : ゴール型のレクリエーションスポーツを楽しむ。また、スポーツを安全に行うためのウォーミングアップやクーリングダウンの方法を学ぶ。 <b>第 5 回 Cボール</b> : ルールを学びゲームを楽しみながら、ボールに触る感覚を習得する。 <b>第 6 回 プレルボール</b> : ルールを学びゲームを楽しみながら、ボールをつなぐ技術を習得する。 <b>第 7 回 バレーボール①</b> : サーブ・オーバーハンドなどの基礎技術を習得し、簡易ゲームを楽しむ。 <b>第 8 回 バレーボール②</b> : ルール・審判方法を学び、皆でゲームを楽しむ。 <b>第 9 回 ポートボール</b> : ルールを学びゲームを楽しみながら、パス感覚を習得する。 <b>第 10 回 バスケットボール①</b> : ドリブル、シュートなどの基礎技術を習得し、簡易ゲームを楽しむ。 <b>第 11 回 バスケットボール②</b> : ルール・審判方法を学び、皆でゲームを楽しむ。 <b>第 12 回 バドミントン①</b> : サーブ・ドライブなどの基礎技術を習得し、簡易ゲームを楽しむ。 <b>第 13 回 バドミントン②</b> : ダブルスのルール・審判方法を学び、皆でゲームを楽しむ。 <b>第 14 回 バドミントン③</b> : シングルのルール・審判方法を学び、団体戦でゲームを楽しむ。 <b>第 15 回 リクエストスポーツ</b> : 授業で行ったスポーツのなかで、履修者のリクエストが多いものを行う。また、生涯にわたるスポーツとのかかわり方（する・みる・ささえる・知る）について学ぶ。				
<b>&lt;授業時間外学修&gt;</b> 予習（取組時間の目安：5～15 分/コマ） ・授業で行うスポーツについて、情報を収集する。 復習（取組時間の目安：5～15 分/日） ・授業内で紹介するエクササイズや生活習慣等の改善を日々実践し、身体機能の向上を目指す。				

<テキスト>

必要に応じて、授業内で提示・配布する。

<参考資料>

必要に応じて、授業内で提示・配布する。

<成績評価>

受講態度及び積極性 60%、授業外で取り組み 30%、課題 10%

【受講態度及び積極性】

- ・授業に臨む姿勢：遅刻、早退、服装、靴、忘れ物など。
- ・授業時の様子：得て不得手に関係なく積極的に運動に取り組む様子や仲間とコミュニケーションを図りながら活動を楽しもうとする姿勢。

【授業外での取り組み】

- ・良好な生活行動の実践で体調を整え、授業に参加することができたか。

【課題】

- ・授業内に課すアンケートやワークシートの提出とその内容。

※フィードバックは、授業内での講評や個別に回答を行う。

<備考>

- ・自身の健康状態や体調を確認して参加すること。
- ・実技時はスポーツウエア、室内用運動靴を着用すること。それ以外の着用は安全上の観点から認められない。また、怪我の原因となるようなアクセサリ類（時計・ネックレス・ピアス・ネイルチップ）などの着用も禁止する。

体育講義			小貫凌介	
必修科目	講義	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分				
保育士養成課程の区分				
担当教員の実務経験				
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>①体力の変化と生涯スポーツの必要性          学生年代から年を重ねることによって変化する体力について学び、健康的な生活を送る上でのスポーツとの関わりについて学習する。</p> <p>②幼児教育における体育・スポーツ、幼児期の発育発達に即した体育やスポーツの在り方について、その論理的根拠を学習する。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>① 健康な生活を送る上でスポーツを実践することは、とても効果的である。では、それが何故、必要であるのか、どの様に、実践すれば良いのかについて生理学的、心理学的および社会学的観点から学び、理解をする。</p> <p>② 幼児期における骨格形態の変化およびそれに伴う機能の変化から、それに応じた運動、スポーツについて学ぶ。特に幼児期運動指針ガイドブックを参照し、幼児期の運動の在り方について包括的に理解をする。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>教員は講義形式で実施し、学生はノートテイクを行う。また、学生が講義内容に関する質問や疑問を持つ場合、随時、教員と学生の間でディスカッションを行う。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 ガイダンス、授業の趣旨、概要、評価について</p> <p>第2回 身体活動について</p> <p>第3回 体力について①（体力の分類、加齢と体力の関係）</p> <p>第4回 体力について②（体力の性差、月経）</p> <p>第5回 体力トレーニングの基礎①（基本原則）</p> <p>第6回 体力トレーニングの基礎②（健康増進）</p> <p>第7回 体力トレーニングの基礎③（疲労回復）</p> <p>第8回 体力トレーニングの基礎④（栄養摂取）</p> <p>第9回 スポーツと心の関り（メンタルトレーニング）</p> <p>第10回 体育とスポーツ（体育とスポーツの違い、スポーツの概念）</p> <p>第11回 スポーツの特徴①（様々なスポーツの特徴）</p> <p>第12回 スポーツの特徴②（球技スポーツを経験する）</p> <p>第13回 スポーツの特徴③（スポーツと障害について）</p> <p>第14回 新体力テスト（体力測定の意義について）</p> <p>第15回 振り返り・まとめ</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>次回の授業内容に基づき調べ学習（資料やテキストを読む）を行う。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>特になし</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>特になし</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>期末テスト(80%)、レポート(20%)</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

体育			細谷美碧	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(体育)」			
担当教員の実務経験	—			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>音楽に合わせてながら動ける身を作り、子どもたちに表現する楽しさと基礎体力を身につけられるように自分自身で積極的に取り組む。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>子どもたちに指導するための体力や柔軟性を養い、身体を動かすことで可動域を広げ、行事等で活かせる演技や表現力を養うことを目的とする。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>授業での一つひとつ動作の中で得た、動かした部位と他のどこがつながって動いているのかを感じ取り、総合的に身体全体を使い動く、ということを、日々の生活の中で気付き、反復し体得する。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>授業計画</p> <p>第1回：基礎柔軟体操 説明</p> <p>第2回：基礎柔軟体操 実践</p> <p>第3回：応用柔軟体操 実践</p> <p>第4回：基本ステップ</p> <p>第5回：応用ステップ</p> <p>第6回：手・腕の動作（ポーズ）</p> <p>第7回：足・脚の動作（ポーズ）</p> <p>第8回：手・足組み合わせ動作（ポーズ）</p> <p>第9回：ステップを組ませた動作</p> <p>第10回：曲に合わせた振り付けの説明</p> <p>第11回：振り付けに対しての細やかな指導</p> <p>第12回：振り付けを体得する</p> <p>第13回：発表までの振り付けの完成を目指す</p> <p>第14回：試験を受ける為の基礎・応用の確認指導</p> <p>第15回：試験・授業</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>授業での一つひとつの動作の中で得た、動かした部位と他のどこがつながって動いているのかを感じ取り、総合的に身体全体を使い動く、ということを、日々の生活の中で気付き、反復し体得する。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>特になし</p>				
<p>&lt;参考書・参考資料&gt;</p> <p>特になし</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>実技試験 60%</p> <p>授業への取り組み 30%</p> <p>出席率 10%</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

図画工作Ⅱ			羽田顕佑	
必修科目	演習	2単位	2年次	単独
教員養成課程の区分				
保育士養成課程の区分				
担当教員の実務経験	—			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>造形活動の主体となる子どもの心情や体性感覚を迫体験的に学ぶことで、「描く」「作る」活動を通して何を育むのかという教育的目的を明確に考える実践的姿勢を培ってゆく。</p> <p>造形・表現の演習活動を通じて、表現を通じた心身発達と子どもの人格・概念形成との関係を理解し、年齢や発達を考慮した課題設定の在り方などについて具体的に考察する力を付ける。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児の心身発達と造形活動との関連、及び、造形の発達段階について学習する。</li> <li>2. 造形活動で使用する教材や素材・用具についての知識を、体験を通して習得する。</li> <li>3. 年齢や発達に合わせた教育課題が考えられるようになることを目指す。</li> <li>4. 表現領域のひとつとしての、造形教育がもつ目的や意味について理解する。</li> </ol>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>講義と実技演習を複合的に行う。実技演習では個人および集団による制作や遊びを取り扱う。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 【講義】 ガイダンス…授業の趣旨、概要、求める姿勢、評価について</p> <p>第2回 【講義】 造形領域からみる人間の発達的特質</p> <p>第3回 【講義】 人間の心身発達の段階（手と言語の能力を中心に）映像教材の鑑賞</p> <p>第4回 【講義】 描画・造形の発達段階</p> <p>第5回 【講義】 表現と思考の発達過程／造形による教育の目的</p> <p>第6回 【演習】 描画発達段階の迫体験①手と目の照応作用の確認</p> <p>第7回 【演習】 描画発達段階の迫体験②照応作用を駆使した描画遊び</p> <p>第8回 【演習】 描画発達段階の迫体験③知覚に注視した描画遊び</p> <p>第9回 【演習】 紙素材による制作①切り紙遊び（手の能力と造形思考）</p> <p>第10回 【演習】 紙素材による制作②お弁当制作（生活のイメージと造形思考）</p> <p>第11回 【演習】 絵の具による表現①描画材と用具の活用</p> <p>第12回 【演習】 絵の具による表現②身体性を用いた遊び（フィンガーペイント）</p> <p>第13回 【演習】 造形の教材研究①題材の選定、実制作</p> <p>第14回 【演習】 造形の教材研究②指導案作成</p> <p>第15回 【講義】 まとめ 子どもの発達と教育課題</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>事前学修として、前時内容の振り返り・確認を行う。</p> <p>演習授業において、各自の進行状況に応じて課外での補充作業を課す場合がある。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>指定しない。必要に応じてプリント資料等を配布する。</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>『造形のじかん』作善圭編著、愛智出版、2013</p> <p>『子供の世界 子供の造形』松岡宏明、三元社、2017</p> <p>『幼稚園教育要領』平成29年3月告示 文部科学省</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省</p> <p>『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省）</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>1. 取り組みの姿(10%) 2. 演習成果物・振り返り等の記録・小テスト(60%) 3. 最終課題(30%)</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

図画工作Ⅱ			羽田顕佑	
必修科目	演習	2単位	2年次	単独
教員養成課程の区分				
保育士養成課程の区分				
担当教員の実務経験	なし			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>造形活動の主体となる子どもの心情や体性感覚を追体験的に学ぶことで、「描く」「作る」活動を通して何を育むのかという教育的目的を明確に考える実践的姿勢を培ってゆく。</p> <p>造形・表現の演習活動を通じて、表現を通じた心身発達と子どもの人格・概念形成との関係を理解し、年齢や発達を考慮した課題設定の在り方などについて具体的に考察する力を付ける。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児の心身発達と造形活動との関連、及び、造形の発達段階について学習する。</li> <li>2. 造形活動で使用する教材や素材・用具についての知識を、体験を通して習得する。</li> <li>3. 年齢や発達に合わせた教育課題が考えられるようになることを目指す。</li> <li>4. 表現領域のひとつとしての、造形教育がもつ目的や意味について理解する。</li> </ol>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>講義と実技演習を複合的に行う。実技演習では個人および集団による制作や遊びを取り扱う。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 【講義・演習】 発達と個性を捉える理論と実践①芸術療法の理論</p> <p>第2回 【講義・演習】 発達と個性を捉える理論と実践②芸術療法の体験と省察</p> <p>第3回 【演習】 立体アバター制作①導入、構想（平面によるアイデアスケッチ）</p> <p>第4回 【演習】 立体アバター制作②構想、経過記録作成</p> <p>第5回 【演習】 立体アバター制作③立体化に向けた導入、芯材組みの準備</p> <p>第6回 【演習】 立体アバター制作④芯材組み</p> <p>第7回 【演習】 立体アバター制作⑤粘土造形</p> <p>第8回 【演習】 立体アバター制作⑥粘土造形仕上げ</p> <p>第9回 【演習】 立体技法の活用（季節に合わせた制作）：クリスマスリース</p> <p>第10回 【演習】 立体アバター制作⑦仕上げ、着彩</p> <p>第11回 【演習】 張り子制作②原型作り～張り込み</p> <p>第12回 【演習】 張り子制作③張り込み</p> <p>第13回 【演習】 張り子制作④仕上げ</p> <p>第14回 【講義・演習】 作品鑑賞会・講評</p> <p>第15回 【講義】 まとめ：制作と理論の関係を確認／造形による教育の基本的視座</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>事前学修として、前時内容の振り返り・確認を行う。</p> <p>演習授業において、各自の進行状況に応じて課外での補充作業を課す場合がある。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>指定しない。必要に応じてプリント資料等を配布する。</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>『造形のじかん』作善圭編著、愛智出版、2013</p> <p>『子供の世界 子供の造形』松岡宏明、三元社、2017</p> <p>『幼稚園教育要領』平成29年3月告示 文部科学省</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省</p> <p>『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省）</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>1. 取り組みの姿(10%) 2. 演習成果物・振り返り等の記録・小テスト(60%) 3. 最終課題(30%)</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

人間関係		清水かおり	
必修科目	演習	1 単位	1 年次 単独
教員養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(人間関係)」		
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(人間関係)」		
担当教員の実務経験	私立保育所にて保育士として勤務 認定こども園にて保育教諭として勤務 私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務		
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に考察し、実践する方法を身に付ける。</p>			
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。</li> <li>2. 領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用することができる。また、情報機器について、幼児の体験との関連を考慮しながら活用するなど留意点を理解する。</li> <li>3. 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</li> <li>4. 領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組みすることができる。</li> </ol>			
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>事例検討を主軸とし、保育についての様々な考え方を身につけていく。 グループディスカッションによって他者の意見に関心をもち、自分の考えに取り込んでいく。</p>			
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 領域「人間関係」の基本            第2回 子どもの発達と人間関係の変化            第3回 自立心と援助            第4回 感情発達と援助            第5回 自他の区別の理解と援助            第6回 自己調整能力            第7回 ルールのある遊びと援助            第8回 個と集団の育ち            第9回 遊びの発達と保育の展開            第10回 行事のねらいと活動内容            第11回 幼小接続            第12回 保育と教育            第13回 地域とのかかわり、地域の役割            第14回 多様性について            第15回 領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ</p>			
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>前回の授業ノートや資料を熟読し、説明できるようにしておく。</p>			
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>『事例で学ぶ保育内容 &lt;領域&gt;人間関係』萌文書林</p>			
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）            幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）            保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p>			
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>授業内提出物（50%） 授業内試験（50%）</p>			
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>			

情報機器の操作			協みどり	
必修科目	演習	2 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	－			
保育士養成課程の区分	－			
担当教員の実務経験	－			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>保育士、幼稚園教諭業務に必要な基本的PCスキルを身につけます。園だよりなど想定される業務内容に応じた課題の作成を通して、文書作成 (Word)、数値処理 (Excel)、プレゼンテーション (PowerPoint) の基本スキルを習得します。加えて、現代社会に広がる多数の情報から、必要とする情報を的確に収集・判断・評価・発信する能力「情報リテラシー」の基本を学習します</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>ステップ 1 (Word)：文章作成、編集に関する基本スキルの習得  ステップ 2 (Excel)：データ記録、分析に関する基本スキルの習得  ステップ 3 (Power Point)：ポスター作成やプレゼン資料に関する基本スキルの習得  ステップ 4 (情報リテラシー)：ICT 利活用と情報の見極めに関する知見の理解・把握</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>テーマに沿った課題を PC を操作しながら学習し、成果物として提出します。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第 1 回 オリエンテーション  第 2 回 PC 基本操作 Office ソフト説明 現代社会と情報  【ステップ 1 (Word)】  第 3 回 基本機能の確認と操作  第 4 回 体裁・レイアウト  第 5 回 図表の挿入と編集① 図形の組み合わせ、配置、編集  第 6 回 図表の挿入と編集② 表の作成、配置、編集  第 7 回 さまざまな機能の活用 (グリッド線、ぶら下げ、ヘッダーとフッター、段組みなど)  第 8 回 課題演習 I：「園だより」の作成  【ステップ 2 (Excel)】  第 9 回 基本機能の確認と操作  第 10 回 基本関数の操作 (SUM、AVERAGE など)  第 11 回 グラフの作成 (集合縦棒から散布図まで)  第 12 回 Excel データの Word 利用  第 13 回 データ分析・読解の基礎 (代表値の性質、ばらつき、分布など)  第 14 回 課題演習 II：「園児名簿」の作成  第 15 回 まとめ</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>配布資料をよく読み内容の理解に努めてください。課題は仕様をよく確認して作業してください。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>教科書はありません。教員が資料と課題をデータで配布します。  (受講者は各自 USB メモリなどのデータ保存用デバイスの準備を推奨します。メーカー等自由、容量は 8GB 程度で十分です。初回は不要です。説明を聞いてから準備してください。)</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>阿部正平ほか (2018)『保育者のためのパソコン講座』萌文書林  土岐順子ほか (2019)『情報利活用 基本演習～Office 2019対応』日経BP  その他の参考書は、必要に応じて随時紹介します。</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>最終成果物 (課題演習) の評価 60%  授業への参加度 40% (授業内の小課題やアンケート提出)</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

情報機器の操作			協みどり	
必修科目	演習	2 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	－			
保育士養成課程の区分	－			
担当教員の実務経験	－			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>保育士、幼稚園教諭業務に必要な基本的PCスキルを身につけます。園だよりなど想定される業務内容に応じた課題の作成を通して、文書作成 (Word)、数値処理 (Excel)、プレゼンテーション (PowerPoint) の基本スキルを習得します。加えて、現代社会に広がる多数の情報から、必要とする情報を的確に収集・判断・評価・発信する能力「情報リテラシー」の基本を学習します</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>ステップ 1 (Word)：文章作成、編集に関する基本スキルの習得  ステップ 2 (Excel)：データ記録、分析に関する基本スキルの習得  ステップ 3 (Power Point)：ポスター作成やプレゼン資料に関する基本スキルの習得  ステップ 4 (情報リテラシー)：ICT 利活用と情報の見極めに関する知見の理解・把握</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>テーマに沿った課題を PC を操作しながら学習し、成果物として提出します。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>【ステップ 3 (Power Point)】</p> <p>第 1 回 基本機能の確認と操作  第 2 回 レイアウト、配色、オブジェクトの編集  第 3 回 アニメーションとエフェクト  第 4 回 図表の作成と画像の取り込み・挿入  第 5 回 「園のお祭り」ポスター作成  第 6 回 動画作成と素材の利用に関する注意点  第 7 回 Office まとめ 情報の配置や印刷  第 8 回 課題演習Ⅲ：「遠足のしおり」の作成  第 9 回 課題演習Ⅳ：「園での生活紹介 (プレゼン資料)」の作成</p> <p>【ステップ 4 (情報リテラシー)】</p> <p>第 1 0 回 ICT の利活用と課題① ウェブアプリ  第 1 1 回 ICT の利活用と課題② 情報倫理とセキュリティ  第 1 2 回 情報リテラシー① 認知バイアスと情報  第 1 3 回 情報リテラシー② 情報を吟味し見極める (クリティカルシンキング)  第 1 4 回 課題演習Ⅴ：最終課題の作成  第 1 5 回 全体まとめ</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>配布資料をよく読み内容の理解に努めてください。課題は仕様をよく確認して作業してください。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>教科書はありません。教員が資料と課題をデータで配布します。  (受講者は各自 USB メモリなどのデータ保存用デバイスの準備を推奨します。メーカー等自由、容量は 8GB 程度で十分です。初回は不要です。説明を聞いてから準備してください。)</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>阿部正平ほか (2018)『保育者のためのパソコン講座』萌文書林  土岐順子ほか (2019)『情報利活用 基本演習～Office 2019対応』日経BP  その他の参考書は、必要に応じて随時紹介します。</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>最終成果物 (課題演習) の評価 60%  授業への参加度 40% (授業内の小課題やアンケート提出)</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

社会福祉		小林根	
必修科目	講義	2単位	1年次 単独
教員養成課程の区分	—		
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「(社会福祉)」		
担当教員の実務経験	介護系施設 16年		
<p>&lt;授業概要&gt;  社会福祉を考えていく上でベースとなる、ノーマライゼーションやナショナルミニマムを始めとする福祉の理念・世界とわが国における福祉の歴史的発展・さまざまな理論の展開・福祉六法や福祉関係八法などの法制度などを中心に講義していく。また、それぞれの分野における諸問題を社会福祉の観点から考察していく。社会福祉の援助に関しても簡単に触れ、進級後の履修科目になる「子育て支援」へと繋げていくことができるようにと考えている。</p>			
<p>&lt;授業の到達目標&gt;  ・社会福祉の基礎的理解と諸サービスの体系的理解ができる。  ・法制度を理解できる。  ・福祉理念や倫理から、技術だけでない専門職として必要なことを学ぶ。  ・専門職者として自己を客観視し、あるべき姿を考える。</p>			
<p>&lt;授業方法&gt;  講義中心ではあるが、パワーポイントや動画視聴を交え、テキスト以外にも視聴覚教材を活用して、わかりやすく解説してゆく。</p>			
<p>&lt;授業計画&gt;  第1回 社会福祉とは。社会福祉と私たち(「社会福祉」の言葉のイメージ、目的、社会福祉の体系)  第2回 広義の社会福祉と狭義の社会福祉。社会福祉の理念(ナショナル・ミニマム、ノーマライゼーション等)  第3回 社会福祉の基本的な視点。社会福祉理論の展開について(制度政策論、技術論、運動論、福祉改革論等)  第4回 世界の社会福祉の歴史的展開(エリザベス救貧法～20世紀の福祉の展開【イギリス】)  第5回 世界の社会福祉の歴史的展開(ソーシャルワークの確立まで【アメリカ】)、我が国の社会福祉の歴史的発展【日本】  第6回 社会福祉の権利(人権としての社会福祉、社会福祉の権利と権利の体系的研究)。『生存権』について  第7回 社会福祉の権利と社会福祉行政(法規裁量と自由裁量、申請主義と職権主義、不服申し立て制度等)  第8回 社会福祉の対象(救貧時代の対象者、社会事業の対象者、社会保険の対象者等)  第9回 社会福祉の対象の把握(ニーズ・アプローチ、生活問題からの対象把握、援助技術によるアプローチ等)  第10回 社会福祉の主体(主体とは何か、政策主体・経営主体・実践主体、福祉多元主義、社会福祉の行政)  第11回 社会福祉の法制度(社会福祉法、福祉六法、介護保険制度、ゴールドプラン関係、障害者プラン関係等)  第12回 社会福祉の援助(ソーシャルワークと関連技術の種類、専門職成立の条件)。自己覚知に関して  第13回 社会福祉の援助(援助の原則)。社会福祉の分野(家族問題と社会福祉、高齢者問題と社会福祉)  第14回 社会福祉の分野(児童問題と社会福祉、地域問題と社会福祉、貧困問題と社会福祉、障害者と社会福祉)  第15回 総括 定期試験</p>			
<p>&lt;授業時間外学修&gt;  事前学習を奨励するとともに、授業内において、定期的に調べ学習等のレポートを課す。</p>			
<p>&lt;テキスト&gt;  松原康雄／坏洋一／金子充編  『社会福祉』(新基本保育シリーズ④)、中央法規、2019年</p>			
<p>&lt;参考資料&gt;  特になし</p>			
<p>&lt;成績評価&gt;  筆記試験を行う。  60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とし、単位を認定する。</p>			
<p>&lt;備考&gt;  単位認定は授業の3分の2以上を出席しなければならない。</p>			

社会的養護 A			蠣崎尚美	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「社会的養護 A」）			
担当教員の実務経験	—			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>現代の社会的養護の制度や実施体系について理解する。そして、歴史、原理、人権問題など実際の社会的養護施設の現状と課題に理解を深め、社会的養護の対象や専門職について理解する。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会的養護が必要になる養護問題について理解する。</li> <li>2 社会的養護の体系、歴史的展開、地域の役割を理解する。</li> <li>3 子ども家庭福祉の理念と児童福祉施設の養護の実際を理解する。</li> <li>4 児童福祉施設の専門職の役割を知る。</li> </ol>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>講義</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション 社会的養護の理念と概念  第2回：現代社会と児童福祉、社会的養護の基本原則  第3回：権利主体としての児童（子どもの人権擁護）  第4回：社会的養護の歴史  第5回：児童養護の体系（施設、里親、グループホーム等）  第6回：社会的養護の制度と法体系  第7回：施設養護と家庭養護  第8回：施設養護の基本原則 子どもの最善の利益  第9回：施設養護の実際 施設の日常生活、自立支援 ビデオ視聴 『児童養護施設』  第10回：施設養護の実際 治療的・支援的援助 ビデオ視聴 『障害児入所施設』  第11回：社会的養護に関わる専門職（児童相談所、関係機関、家庭等）  第12回：被措置等の虐待防止  第13回：児童福祉施設の援助者としての資質・倫理  第14回：社会的養護の目指す方向、地域福祉 ビデオ視聴 『ばっちゃん 元保護司の活動』  第15回：授業のまとめ・定期試験</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>次回の授業の該当箇所を事前に読んでおく。授業内で配布された資料を試験に向けてまとめる。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>『社会的養護』喜多一憲監修 堀場純矢編集 みらい</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>筆記試験 50%、参加態度 40%、課題 10%</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>毎回資料を配布するので、A4サイズのファイルかノートを用意すること。</p>				

実習指導（事前・事後）		（担当教員名）岸本圭子・甲田美香		
必修科目	演習	1 単位	2 年次	複数
教員養成課程の区分	教育実践に関する科目「(実習指導)」			
保育士養成課程の区分	—			
担当教員の実務経験	岸本：私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務 甲田：私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務			
<p>&lt;授業概要&gt; 事前指導では、幼稚園教育の基本や実習の意義・目的・内容・方法を理解し、幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学び、実習を円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし振り返り、自己評価を行い、今後の課題を明確にする。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt; 1 実習の基本的理解 2 幼稚園教育の理解と保育の方法 3 幼稚園教育の実践的課題を学ぶ 4 保育者に望まれる資質と実習生の心得</p>				
<p>&lt;授業方法&gt; テキストやプリントに加え、視覚教材、事例やグループワークなどを通して、体験的実践的に知識や技術を身につける。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt; 第1回：オリエンテーション（振り返りながら、教育実習に向けて目的を持つ） 第2回：幼稚園の一日の流れ（VTRを見ながら幼稚園の一日の流れを把握しながらレポートに書く） 第3回：3～5歳児の発達について 第4回：オリエンテーションに向けて①(身上書・実習課題) 第5回：オリエンテーションに向けて②(「本日の実習課題」の立て方について) 第6回：オリエンテーションに向けて③(受けるに当たり実習生としての心構え、確認事項など) 第7回：実習日誌の書き方①（「一日の流れ」…子どもの活動・保育者の援助の流れについて） 第8回：実習日誌の書き方②（「一日の流れ」…気づきや考察の考え方、「自由形式の書き方」について） 第9回：実習日誌の書き方③（「自由形式の書き方」について） 第10回：指導案の作成①（部分実習と責任実習の違い、内容の考え方） 第11回：指導案の作成②（ねらいや環境構成の考え方） 第12回：指導案の作成③（実際に日案の立案をする） 第13回：実習直前の指導（実習生としての心構えの確認） 第14回：中間指導（実習期間中の様子、指導案などについて） 第15回：事後指導（振り返りと課題確認）</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt; 教材研究や提出書類の準備などを行う。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt; 小櫃 智子 ほか「幼稚園、保育所、認定こども園実習 パーフェクトガイド」わかば社 「実習の手引き」 聖ヶ丘保育専門学校 編</p>				
<p>&lt;参考資料&gt; 「幼稚園教育要領解説（平成30年3月）」文部科学省 「保育所保育指針解説（平成30年3月）」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）」内閣府・文部科学省・厚生労働省</p>				
<p>&lt;成績評価&gt; 実習生としてのふるまい(提出物70%・実習前後の報告20%、実習前確認テスト10%)</p>				
<p>&lt;備考&gt; 教育実習指導の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数 の3分の2以上出席すること、および教育実習の単位修得が必要となる。</p>				

子育て支援			小林根	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(子育て支援)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(子育て支援)」			
担当教員の実務経験	介護施設 16 年勤務			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義と共にワークブックを活用し、毎回単元に関連した事例を読み解き、グループワークを行う。授業内容に沿った課題を毎回提出する。</li> <li>・パワーポイントや動画等視聴覚教材を活用し、理解しやすい教育環境の下で授業を行う。</li> </ul>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>授業計画</p> <p>第1回： 子育て支援とは</p> <p>第2回： 子育て支援の意義</p> <p>第3回： 子育て支援の基本的価値・倫理</p> <p>第4回： 子育て支援の基本姿勢</p> <p>第5回： 子育て支援の基本的技術</p> <p>第6回： 園内・園外との連携と社会資源</p> <p>第7回： 記録・評価・研修</p> <p>第8回： 日常会話を活用した子育て支援</p> <p>第9回： 文章を活用した子育て支援</p> <p>第10回： 行事などを活用した子育て支援</p> <p>第11回： 環境を活用した子育て支援</p> <p>第12回： 地域子育て支援拠点における支援</p> <p>第13回： 入所施設における子育て支援</p> <p>第14回： 通所施設における子育て支援</p> <p>第15回： まとめと今後の課題      テスト</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>事前にテキスト内の事例を読み、次回の授業に備える。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>「子育て支援」 二宮裕子 萌文書林 2018 年</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>特になし</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>ワークシートによる評価 70%、テスト 30%</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

子ども家庭福祉			蠣崎尚美	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「子ども家庭福祉」）			
担当教員の実務経験	—			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>子ども家庭福祉とは何かから始まり、その歴史や子どもの人権擁護などについての理解を深める。また、子どもをめぐるさまざまな問題を取り上げ、保育者として必要な子ども家庭福祉の知識を探究する。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子ども家庭福祉についての基本的理念について学ぶ。</li> <li>2 子ども家庭福祉施策及びとりまく諸状況の変化について学ぶ。</li> <li>3 子ども家庭福祉に関わる社会の仕組みや法律・制度について体系的に学ぶ。</li> </ol>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>講義</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：子ども家庭福祉の理念と概念  第2回：子どもの権利保障  第3回：子ども家庭福祉の歴史の変遷、諸外国の動向  第4回：子ども家庭福祉の展開  第5回：児童福祉法の成立と改正  第6回：子ども家庭福祉等機関・地域活動  第7回：子ども家庭福祉サービス・養護  第8回：子ども家庭福祉サービス・障害  第9回：子ども家庭福祉行政の仕組み  第10回：母子保健と子どもの健全育成  第11回：多様な保育へのニーズ  第12回：子ども福祉サービスの実際／障害  第13回：子ども福祉サービスの実際／ひとり親  第14回：子ども福祉サービスの実際／里親  第15回：1回から14回のまとめと試験</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>次回の授業の該当箇所を事前に読んでおく。授業内で配布された資料を試験に向けてまとめる</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>保育と子ども家庭福祉 櫻井奈津子 編 株式会社みらい</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>筆記試験 40% レポート 50% 授業態度 10%</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>毎回資料を配布するので、A4 ファイルかノートを用意すること。</p>				

子ども家庭支援論			坂吉美代	
必修科目	講義	2 単位	3 年次	単独
教員養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目（「子ども家庭支援論」）			
保育士養成課程の区分	—			
担当教員の実務経験	保育士（保育所・23 年） 園長（保育所・16 年）			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>・家庭とは何か、支援とは何かを、すべての子どもたちが子どもらしく生き生きと生活できるよう、保育の専門性を生かした支援、保育士として求められる基本的態度を知り、子ども家庭支援を捉える。支援の体制（社会資源、支援施策）多様な支援の展開と関係機関との連携等、具体的な事例を通して保育の視点を考え論じる。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>・家庭環境の変化、子育てをめぐる様々な問題から、子育て家庭に対する支援の意義、目的を理解する。</p> <p>・保育の専門性を生かした家庭支援、保育士に求められる基本的態度を理解して説明できる。</p> <p>・支援の体制（国の施策、地域における社会資源）について学び、保育士の担う支援の理解を深める。</p> <p>・状況に応じた多様な支援の展開、支援内容によって専門機関との連携の重要性を理解する。また、子ども家庭支援の現状、課題について理解する。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>調べた事をプレゼンテーション</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーション（授業の目標、15 回の流れ、評価）・家族、家庭とは・子ども、家庭をめぐる環境</p> <p>第 2 回：子ども家庭支援の意義と役割</p> <p>第 3 回：保育士による子ども家庭支援の意義と基本 ① 保育の専門性を生かした実践の支援</p> <p>第 4 回： 〃 ② 子どもの育ちを保護者と共有する具体的な支援 ③ 保護者の子育てを自ら実践する支援</p> <p>第 5 回： 〃 ④ 保育士に求められる基本的態度</p> <p>第 6 回： 〃 ⑤ 家庭の状況に応じた支援、「保育所保育指針 第 4 章」</p> <p>第 7 回：子育て家庭に対する支援体制（社会資源、支援施策）</p> <p>第 8 回：① 地域の社会資源、支援施策についてプレゼンテーション</p> <p>第 9 回：②地域の社会資源、支援施策についてプレゼンテーション</p> <p>第 10 回：多様な支援の展開と関係機関との連携 ① 支援の内容と対象 ② 保護者との相互理解、信頼関係、</p> <p>第 11 回： 〃 ③ 状況に応じた個別支援</p> <p>第 12 回： 〃 ④ 要保護児童家庭に対する支援</p> <p>第 13 回： 〃 ⑤ 地域の子育て家庭への支援</p> <p>第 14 回：子ども家庭支援に関する現状と課題</p> <p>第 15 回：授業の振り返りと期末試験</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>レポート作成（地域の社会資源や子育て支援）</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>使用しない 必要に応じてプリントを配布</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>『最新 保育士養成講座 第 10 巻 子ども家庭支援』 全国社会福祉協議会 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>期末試験（50%） レポート（40%） プレゼンテーション（10%）</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

子ども家庭支援の心理学			黒石憲洋	
必修科目	講義	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目（「子ども家庭支援の心理学」）			
担当教員の実務経験	—			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>主な内容としては、①生涯発達の理論に基づいて各発達段階における発達課題と心理社会的危機について学修する。②家族・家庭の機能に関する社会学的理論に基づいてさまざまな家族・家庭の在り方について検討する。③家族・家庭の問題について因果的な理解を越えてシステム論的な視点からとらえ直しをおこなう。④子どものウェル・ビーイングに影響を与える家族・家庭を含めた社会環境要因を考察する。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。</li> <li>2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。</li> <li>3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題を理解する。</li> <li>4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。</li> </ol>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>講義、グループ・ディスカッション、発表などを組み合わせておこなう。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：ガイダンスとイントロダクション：講義の概要、子ども家庭支援の心理学で学ぶこと  第2回：発達とは：生涯を通じた変化、各発達段階における発達課題と危機  第3回：生涯発達（1）：乳幼児期から幼児期にかけての発達  第4回：生涯発達（2）：児童期から思春期・青年期にかけての発達  第5回：生涯発達（3）：成人期から高齢期にかけての発達  第6回：道徳性の発達  第7回：対人関係の発達  第8回： 集団機能の社会学的理解  第9回： 家族・家庭の在り方を考える  第10回：システム論とは  第11回：家族・家庭のシステム論的理解  第12回：家族・家庭の発達  第13回：子どもの生活・生育環境としての家族・家庭：虐待・ネグレクト等  第14回：子どものウェル・ビーイングを考える  第15回：まとめと定期試験</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>事後学修として、授業ノートを整理し、内容の確認をおこなう。前回の授業内容は、次回までにしっかりと理解しておくこと。不明な点については、自主学習や受講生間の協同学習、教員への質問などにより必ず解消しておくこと。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>テキストは特に使用しない。必要に応じて講義中に資料を配付する。</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>吉川悟(編) (1999). システム論からみた学校臨床 金剛出版</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>授業内で実施する期末試験において、合格点（100 点満点中、60 点以上）を満たせば、単位を認定する。</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

子どもの理解と援助			竹内真悟	
必修科目	演習	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	生徒指導、教育相談等に関する科目（幼児理解の理論及び方法）			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目（「子どもの理解と援助」）			
担当教員の実務経験	-			
<b>授業の概要</b> 幼児が経験する「つまずき」の意味を理解するためには、集団と個の関係、背景にある家庭や地域とのつながり、発達や学びの過程への理解が欠かせない。保育現場における幼児理解の意義を理解し、心理と保育の視点から保育実践を考察し、記録し、共有する方法を身に付ける。				
<b>&lt;授業の到達目標&gt;</b> （１）一般目標：幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。 到達目標：１）幼児理解の意義を理解している。 ２）幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。 ３）幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。 （２）一般目標：幼児理解の方法を具体的に理解する。 到達目標：１）観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。 ２）個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。 ３）幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。 ４）保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。				
<b>&lt;授業方法&gt;</b> 授業や実習等、体験の「振り返り」を重視する。冒頭に前回の振り返りを共有、補足を行い、振り返りのバラエティや質を高める指導を行う。授業内では、毎回保育現場における短い事例を共有し、幼児理解や支援について討議することを通して、多様な視点や幼児理解を深めるよう促す。				
<b>&lt;授業計画&gt;</b> 第1回：オリエンテーション：幼児理解の意義（１）-１） 第2回：子ども理解はなぜ大切か：気になる行動と幼児理解の方法（１）-１）、（１）-２） 第3回：幼児の愛着形成と他者の役割：安全基地と分離不安（１）-２）、（１）-３） 第4回：幼児の認知発達と他者の役割：年齢による遊びの変化（１）-２）、（１）-３） 第5回：幼児を取り巻く世界の広がり：家族関係と援助資源（１）-３）（２）-２）、（２）-４） 第6回：幼児の「つまずき」の意味：子ども理解の様々な視点（１）-３）、（２）-３） 第7回：「つまずき」への対応１：共感的理解の視点から（１）-３）、（２）-３） 第8回：「つまずき」への対応２：客観的理解の視点から（２）-１）、（２）-２）（２）-３） 第9回：理解を深めるための振り返り１：保育場面の観察と記録（２）-１）、（２）-２） 第10回：理解を深めるための振り返り２：PDCAと仮説検証（２）-１）、（２）-２） 第11回：エピソードの捉え方（２）-３）、（２）-４） 第12回：エピソード記録の実際（２）-１）、（２）-２） 第13回：子ども理解を共有する１：ケースカンファレンス（２）-１）、（２）-２） 第14回：子ども理解を共有する２：保護者対応（２）-３）、（２）-４） 第15回：定期試験とまとめ				
<b>&lt;授業時間外学修&gt;</b> 事後学習（２時間）…Google Formで振り返り（２時間）・事前学習（２時間）を行い提出、次回の授業にて一部を共有し、質疑に回答する。				
<b>&lt;テキスト&gt;</b> 特になし				
<b>&lt;参考資料&gt;</b> 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)				
<b>&lt;成績評価&gt;</b> 毎回の振り返りと課題への取り組み（50%）、試験（50%）によって評価する。				
<b>&lt;備考&gt;</b> 特になし				

子どもの保健			遠藤由美子	
必修科目	講義	2単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「(子どもの保健)」			
担当教員の実務経験	小児科 (1年) 救急救命センター (3年) 相模原市保健予防課子どもの健診(17年)			
<b>&lt;授業概要&gt;</b>				
保育における子どもの保健の位置づけを理解し、健康な子どもを中心に、成長とともに変化する身体と精神の発達を学ぶ。更に、子どもが罹りやすい病気の対応と予防、先天的疾患、感染症、事故の予測と予防、対応について学び、個々の子どもの健康状態や保健上の問題を判断し適切に対応できる基本的知識を得る。また、子供の保健に関する制度と現状・課題について考える。以上について学び、資格取得に必要な知識や技術の習得を目的とする。				
<b>&lt;授業の到達目標&gt;</b>				
子どもの身体的・精神的発達の維持・増進を図る実践活動を行うために、健康な子どもの健やかな成長を基礎として観察の力を医療的視点から磨くために知識を習得する。また、母子保健制度、児童福祉法等の制度によって成長が支えられていることを理解する。更に心を育むことの重要性を自己の成長の経験を活用しつつ、保育者としての役割を理解する。				
<b>&lt;授業方法&gt;</b>				
配布された資料に従い、学習を進める。必要に応じて、質問形式、発表形式、調べ作業、レポート作成を実施する。				
<b>&lt;授業計画&gt;</b>				
第1回 オリエンテーション 子どもの健康と保健の意義 (生命の保持と母性・父性の育成、健康とは)				
第2回 健康の概念と健康指標 (成果物)				
第3回 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 (課題 1 )				
第4回 地域における保健活動と子ども虐待防止 (課題 2 )				
第5回 身体発育及び運動機能の発達と保健 (課題 3 )				
第6回 生理機能の発達と保健 生理機能の発達①(呼吸器、循環器、免疫、消化器) 生理機能の発達②(尿排泄機能、水分代謝、体温調節、内分泌機能) 生理機能の発達③(睡眠、感覚、神経、精神、情緒、行動) (課題 4 )				
第7回 健康状態把握及び心身の不調等の早期発見の重要性 (課題 5)				
第8回 発育・発達の把握と健康診断 (課題 6 )				
第9回 保護者との情報共有 (課題 7)				
第10回 子どもの主な疾病の特徴①先天異常 (課題 8 )				
第11回 子どもの主な疾病の特徴②循環器系・呼吸器系・血液・消化器 (課題 9 )				
第12回 子どもの主な疾病の特徴③アレルギー・泌尿器系・内分泌代謝 (課題 10 )				
第13回 子どもの主な疾病の特徴④脳・運動器・耳・眼・皮膚・歯の病気 (課題 11 )				
第14回 子どもの主な疾病の特徴⑤感染症 (課題 12 )				
第15回 予防接種 (成果物)				
<b>&lt;授業時間外学修&gt;</b>				
授業1～15において家庭学習(課題への取り組み:60分、事前配布の資料の印刷や目を通すなどの準備、授業後プリントの完成と調べ作業等家庭学習へ取り組みクラスルームより提出)				
<b>&lt;テキスト&gt;</b>				
子どもの保健 谷田貝公昭監修、吉田直哉・糸井志津乃編著				
<b>&lt;参考資料&gt;</b>				
保育所保育指針解説平成29年3月告示 厚生労働省				
<b>&lt;成績評価&gt;</b>				
学生に対する評価:①提出課題80点(課題1～12が各8点)②成果物評価 4点				
*授業を欠席した際には、その授業の課題は原則として受理しない。				
*課題は、毎授業で基本課される。				
① ②を合計で100点。80点以上「優」、70～79点「良」、60～69点「可」、59点以下「不可」とする。				
<b>&lt;備考&gt;</b>				
特になし				



子どもの健康と安全			遠藤由美子	
必修科目	演習	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(子どもの健康と安全)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(子どもの健康と安全)」			
担当教員の実務経験	小児科(1年) 救急救命センター(3年) 相模原市保健予防課子どもの健診(17年)			
<b>&lt;授業概要&gt;</b>				
健康状態の観察、子どもの身体測定、生理機能の測定、精神・運動発達機能の評価と記録の方法等演習を通して理解する。また、災害時の対応や対策、緊急時の対応等の方法等子どもが成長する過程で保険対応として必要な対応の技術を習得する。				
<b>&lt;授業の到達目標&gt;</b>				
保育における保健的な視点からから、保育環境や援助について知識を深める。また、各種ガイドラインを用いた、安全対策を保育の視点で理解する。さらに、子どもの健康や安全の管理について組織的取り組みや保健活動の計画や評価方法について具体的に理解する。				
<b>&lt;授業方法&gt;</b>				
配布された資料に従い、演習を行いながら学習を進める。授業により、ICTを活用し質問形式、発表形式、調べ作業、レポート作成を実施する。				
<b>&lt;授業計画&gt;</b>				
第1回 オリエンテーション 子どもの健康と保育環境				
第2回 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理(課題 1)				
第3回 保育における衛生管理(課題 2)				
第4回 保育における事故防止と安全対策、危機管理(課題 3)				
第5回 保育における災害への備え(液体ミルクや使い捨て哺乳瓶)(課題 4)				
第6回 体調不良及び障害発生時の応急処置と対応(課題 5)				
第7回 救急処置及び救急蘇生法(AEDの使用法)(課題 6)				
第8回 感染症の集団発生の予防と発生後の対応(ノロウイルスの対応・手袋のはめ方・外し方おむつの捨て方)(課題 7)				
第9回 保育における保健的対応(課題 8)				
第10回 3歳児未満児への対応(子どもの扱い方)(課題 9)				
第11回 個別的な配慮を要する子どもへの対応(慢性疾患・アレルギー性疾患)(課題 10)				
第12回 障害のある子どもへの対応(歯磨きの仕方)(課題 11)				
第13回 職員間の連携・協働と組織的取り組み(家庭・専門機関・地域の関係機関)(課題 12)				
第14回 保育における保健活動の計画及び評価(成果物)				
第15回 心豊かな子どもに育てるために(成果物)				
<b>&lt;授業時間外学修&gt;</b>				
授業1～15において家庭学習(課題への取り組み:60分、事前配布の資料の印刷や目を通すなどの準備、授業後プリントの完成と調べ作業等家庭学習へ取り組みクラスルームより提出)				
<b>&lt;テキスト&gt;</b>				
保育者養成シリーズ 子どもの健康と安全 林邦雄・谷田貝公昭監修 株式会社 一藝社				
<b>&lt;参考資料&gt;</b>				
保育所保育指針解説平成29年3月告示 厚生労働省				
<b>&lt;成績評価&gt;</b>				
学生に対する評価:①提出課題合計96点(課題1～12が各8点)②成果物評価 4点				
*授業を欠席した際には、その授業の課題は原則として受理しない。				
*課題は、毎授業で基本課される。				
①②を合計で100点。80点以上「優」、70～79点「良」、60～69点「可」、59点以下「不可」とする。				
<b>&lt;備考&gt;</b>				
特になし				

言葉			甲田美香	
必須科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(言葉)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(言葉)」			
担当教員の実務経験	私立幼稚園にて幼稚園教員として勤務			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>領域「言葉」のねらい及び内容を理解するために、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を学ぶ。子どもの言葉の発達の過程を学び、様々な保育者の言葉を育む援助のあり方を学ぶ。児童文化財等を活用し、模擬保育を通して実践力を養うことを目指す。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。</li> <li>・子どもの言葉の発達の過程を理解し、様々な保育者の言葉を育む援助のあり方を知る。</li> <li>・児童文化財等を活用し、模擬保育を通して実践力を養う。</li> </ul>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>事例や視覚教材を使用する。 グループワークや模擬保育を通して、実践的に知識や技術を身につける。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション／領域「言葉」とは 第2回 子どもの発達と言葉：乳児の発達と言葉の獲得（前言語期のコミュニケーション） 第3回 子どもの発達と言葉：乳児の発達と言葉の獲得（0歳～2歳頃） 第4回 子どもの発達と言葉：幼児の発達と言葉の獲得 第5回 話し言葉の機能と発達 第6回 書き言葉の発達と保育 第7回 事例検討（1）共感的・受容的言葉掛け 第8回 事例検討（2）思考を育てる言葉掛け 第9回 指導案の作成 第10回 模擬保育（1）絵本 第11回 模擬保育（2）紙芝居 第12回 模擬保育の振り返り 第13回 言葉で関わりの持ちにくい子どもの援助 第14回 言葉に関する諸問題 第15回 まとめ</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>学習内容を復習し、自分の考えをまとめる。課題を行う。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>適宜資料を配布する。</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>「幼稚園教育要領解説（平成30年3月）」文部科学省 「保育所保育指針解説（平成30年3月）」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）」内閣府・文部科学省・厚生労働省</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>課題 60% レポート 40%</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

健康 I			坂吉美代	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「健康 I」）			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「健康 I」）			
担当教員の実務経験	保育士（保育所・23 年） 園長（保育所・16 年）			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児期における健康の意義と領域「健康」の考え方、子どもの健康をめぐる現状と課題、子どもの健康と遊び、基本的な生活習慣、安全、衛生管理などについて論じる。</li> <li>・ 運動遊びや健康に関わる指導計画の作成、発表、意見交換などを通して実践に繋げる。</li> </ul>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 領域「健康」の「ねらい」「内容」を理解する。</li> <li>・ 子どもの健康の現状から問題を解決できるよう指導の仕方を考えて説明ができる。そして、運動遊びや健康に関わる内容の指導計画を立て実践に繋がるスキルを習得する。</li> </ul>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループワークを主体として指導計画の作成とプレゼンテーション</li> </ul>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーション（授業の目標、15 回の流れ、評価） ・「健康」とは何か、健康の概念について</p> <p>第 2 回：幼稚園教育要領、保育所保育指針における幼児教育のとらえ方、領域「健康」のねらいと内容</p> <p>第 3 回：子どもの育ちについて（子どもの身体的発達、発達の様子）</p> <p>第 4 回：「健康」をめぐる最近の子どもたちの現状と課題について</p> <p>第 5 回：① ルールのある遊び、道具、固定遊具を使った遊び、自然物を使った遊びの計画作成</p> <p>第 6 回：② ルールのある遊び、道具、固定遊具を使った遊び、自然物を使った遊びの計画作成</p> <p>第 7 回：① 遊びの計画をグループごとに発表、意見交換（遊びを引き出す保育の工夫）</p> <p>第 8 回：② 遊びの計画をグループごとに発表、意見交換（遊びを引き出す保育の工夫）</p> <p>第 9 回：子どもの生活習慣について、基本的な生活習慣とその意義および獲得について</p> <p>第 10 回：子どもの健康と安全教育について、安全・衛生管理について</p> <p>第 11 回：① 健康（生活習慣、安全教育、衛生等）に関わる内容について、指導計画作成</p> <p>第 12 回：② 健康（生活習慣、安全教育、衛生等）に関わる内容について、指導計画作成</p> <p>第 13 回：① 健康に関する指導計画をグループごとに発表、意見交換（指導の仕方について）</p> <p>第 14 回：② 健康に関する指導計画をグループごとに発表、意見交換（指導の仕方について）</p> <p>第 15 回：授業の振り返りと期末試験</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>指導計画の発表準備、レポート作成</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>使用しない 必要に応じてプリントを配布</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 健康』無藤 隆 倉持清美編著 萌文書林</p> <p>幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）</p> <p>保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>期末試験（50%） レポート（30%） グループ発表（20%）</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

健康		小貫凌介		
必修科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分				
担当教員の実務経験	—			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の健康と安全の観点から各年齢に合わせて、それぞれの段階で保育者がどのような援助を行えばよいかを講義とグループワーク、実技を組み合わせた授業で習得する。</li> <li>・乳幼児における健康の意義と領域「健康」のねらいと内容について理解を深める。</li> <li>・保育現場での運動遊びや食育の保育方法の実践、乳幼児の子どもに対する健康教育方法、保護者に向けた情報共有方法など具体的な実践方法を学ぶ。</li> </ul>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①幼稚園教育要領・保育所保育指針における、領域「健康」の「ねらい」と「内容」の関係性、意味について理解を深める。</li> <li>②乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣とその獲得、子どもの安全な生活、運動発達などの専門的知識を習得する。</li> <li>③子どもの運動発達の特徴を深め、年齢(月齢)に応じた適切な指導法を身に付ける。</li> </ol>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>教員は講義形式で実施し、学生はノートテイクを行う。また、学生が講義内容に関する質問や疑問を持つ場合、随時、教員と学生の間でディスカッションを行う。必要に応じて実技を行う。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション、様々な諸問題から「健康」について考える。</p> <p>第2回 乳幼児期の健康な生活について：乳幼児をとりまく現代の健康問題について考える。</p> <p>第3回 乳幼児期の発育発達について：からだの発育、運動機能の発達について学ぶ。</p> <p>第4回 乳幼児期の運動 遊びと運動(1) 運動器具を使用しない遊びについて知る。</p> <p>第5回 乳幼児期の運動 遊びと運動(2) 運動器具を使用する遊びについて知る。</p> <p>第6回 乳幼児期の運動 遊びと運動(3) ルールのある遊びについて知る。</p> <p>第7回 乳幼児期の運動 遊びと運動(4) さまざまな集団遊びについて知る。</p> <p>第8回 運動遊びのまとめとして、運動遊びの計画を立て、保育現場を想定した実践発表を行う。</p> <p>第9回 乳幼児期の生活習慣：様々な事例から子どもたちが無理なく生活習慣を身に付ける方法、そのための保育者の援助を考える。</p> <p>第10回 乳幼児期の生活と食：食事の大切さを子どもたちに伝える方法、事例から楽しく食事ができる実践方法を学ぶ。</p> <p>第11回 乳幼児期の安全：子どもの健康と安全教育について学び、安全、衛生管理について考える。</p> <p>第12回 領域「健康」について：保育の中での実践方法について学ぶ。</p> <p>第13回 保護者向け「健康」のお便りを作成し、保護者会を想定した保護者への説明の実践を行う。</p> <p>第14回 領域「健康」をめぐる現代の課題について考える。</p> <p>第15回 授業の振り返りとまとめ、期末試験</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>次回の授業内容に基づき調べ学習(資料やテキストを読む)や、保育教材の準備など行う。学習内容を復習し、自分の考えをまとめる。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>特になし</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>幼稚園教育要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省)</p> <p>保育所保育指針 (平成 29 年 3 月告示 厚生労働省)</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>期末試験(60%)、レポート(20%)、授業態度(20%)</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

教職概論			亀田良克	
必修科目	講義	2 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			
保育士養成課程の区分	－			
担当教員の実務経験	－			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>保育者の役割、保育者の仕事内容、保育者の専門性、保育者の協働、保育者の成長について考えていく。保育者になるとはどのようなことかを探求できる姿勢の構築を目指す。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者として求められる役割、職務内容、能力や資質を身に付けて意欲を高める</li> <li>2. 保育者の専門性について自身の言葉で説明することができる</li> <li>3. 理想の保育者像に向けて省察できる姿勢の構築を目指す</li> </ol>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>講義を中心に進めていく。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 ガイダンス（授業の流れと留意点）、保育者論で何を学ぶのか</p> <p>第2回 保育者とは何か（保育の本質と特質、原理・原則を学ぶ）</p> <p>第3回 保育者になるために（幼稚園教諭免許と保育士資格、制度的位置づけ）</p> <p>第4回 幼稚園教諭の一日について</p> <p>第5回 保育士の一日について</p> <p>第6回 子どもの内面や発達を理解する</p> <p>第7回 子どもの遊びを援助する</p> <p>第8回 個と集団を生かす</p> <p>第9回 家庭や地域との連携・支援</p> <p>第10回 多様な子どもの理解と支援</p> <p>第11回 教材などを通して学びを深める</p> <p>第12回 成長する保育者と同僚性</p> <p>第13回 保育者の専門性</p> <p>第14回 保育者として求められる資質</p> <p>第15回 まとめと定期試験</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>各回の授業終了時に次回の学修内容を伝達するので、テキストの該当箇所を授業前に読んでから授業に臨むこと。また、授業内で学んだ重要なキーワードを中心に配布資料に目を通し、講義内容について各自で復習をしておくこと。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>「アクティベート保育学 02 保育者論」大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸編、ミネルヴァ書房、2019、初版</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>期末試験（80%）とリフレクションシートへの記載内容（20%）とで総合的に判断する。</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

教育保育実地研究		岸本圭子・清水かおり・田村雅美・甲田美香		
必修科目	演習	2単位	1年次	複数
教員養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(教育・保育実地研究)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(教育・保育実地研究)」			
担当教員の実務経験	岸本：私立幼稚園にて幼稚園教員として勤務 清水：私立保育所にて保育士として勤務 認定こども園にて保育教諭として勤務 私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務 田村：私立保育所にて保育士として勤務 甲田：私立幼稚園にて幼稚園教員として勤務			
<b>授業の概要</b> 教育・保育実地研究は本校の附属園・提携園を効果的に活用して、園で積極的に子どもたちと関わることにより、子どもを知り、保育の楽しさを実感し、今後の保育を学んでいこうとする意欲を育てる必修科目である。4月から5月まで事前指導を受け、6月から9月までの隔週1日附属園・提携園の現場で子どもと直接関わることで、さまざまな発見や気づきを記録する。それを学校においてグループで共有し、整理・発表するとともに、子どもや保育のイメージが明確にして、今後の授業や実習にスムーズに入っていけるための入門的・導入的な授業である。				
<b>&lt;授業の到達目標&gt;</b> ・子どもと遊びや生活をともにする楽しさを味わう中で、子どもを知る。 ・園の環境や保育者の関わり方を知る。				
<b>&lt;授業方法&gt;</b> 対面にて体験学習前の心構え、子どもとのかかわり方、準備することなど学ぶ。実際に附属・提携園に行き、子どもの生活や遊び、保育者の関わりなど見て学び、学校にて振り返りをする。				
<b>&lt;授業計画&gt;</b> 第1回：実習部長挨拶、実習部紹介、学校生活などについて 第2回：体験学習実習の流れ、心構えなど、教材研究ノートについて、 第3回：配当発表 身上書の書き方(下書き)、身上書(本書き) 第4回：体験学習のねらいについて、健康管理・予防接種について 第5回：記録の書き方について、オリエンテーションの受け方について、細菌検査配付 第6回：園の先生方をお迎えして 第7回：附属園にてオリエンテーション 第8・9・10・11回：実地研究1回目：子どもと遊ぶ 第12回：振り返り 第13回：カルテ記入、トラブルシューティングについて 第14・15・16・17回：実地研究2回目 第18回：振り返り 第19・20・21・22回：実地研究3回目 第23回：振り返り 第24回：身だしなみ、教材研究について 第25・26・27・28回：実地研究4回目 第29回：振り返り 第30回：実地研究まとめ				
<b>&lt;授業時間外学修&gt;</b> 各自教材研究を進め、子どもとかわる際の準備をする。また、授業での学びを振り返り、見直しをする。				
<b>&lt;テキスト&gt;</b> 特になし				
<b>&lt;教科書・参考資料&gt;</b> 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 「実習の手引き」 聖ヶ丘保育専門学校 編				
<b>&lt;成績評価&gt;</b> 毎回の授業 実習に対する取り組み 70% 課題・提出物 30% ・クラス 配属園によって日程や内容に変更がある場合がありますので注意してください。				
<b>&lt;備考&gt;</b> 特になし				

教育相談論			殿塚貴史	
必修科目	講義	2単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(教育相談論)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(教育相談論)」			
担当教員の実務経験	東京都世田谷区の中学校での心理相談員			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>前期は、保育現場の日常を客観的に見て、知るところから始まり、徐々に現代の子どもがかかえる悩みごと、困りごとに対してどのように把握し、介入していいのか、具体的にはカウンセリングの技術について講義と演習で学んでいく。後期は、子どもの特徴をどう捉えてみると良いのかを考え、次いで、子どもたちを取り囲む背景、広義の教育相談としてどのように子どもたちを「相談支援」という形で守って見届けていけるかを養う理解力を深めていく。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>(1) 学校における教育相談の意義と理論を理解する。(2) 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。(3) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する。(4) 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。(5) 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。(6) いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。(7) 教育相談の基礎となるコミュニティアプローチの内容と方法を理解している。(8) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>講義形式</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション、教育相談概論 とは何か 子どもとはどんな存在か  第2回：心理学の分類と学校心理学  第3回：精神医学と臨床心理学  第4回：臨床心理学の基礎理論1 精神力動理論  第5回：臨床心理学の基礎理論2 認知行動理論  第6回：臨床心理学の基礎理論3 人間性心理学  第7回：臨床心理学の基礎理論4 コミュニティアプローチ・家族療法  第8回：アセスメントとは何か  第9回：アセスメントの方法1・行動観察法  第10回：アセスメントの方法2・面接法  第11回：アセスメントの方法3・心理検査法 質問紙・作業検査・投影法  第12回：不適応・精神疾患・発達障害の違い  第13回：心理社会的ストレスとは何か  第14回：パーソナリティと病前性格  第15回：期末試験とまとめ</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>特になし</p>				
<p>&lt;テキスト・教科書&gt;</p> <p>教育相談 (Next 教科書シリーズ) 弘文堂 津川律子 山口義枝 北村世都 編</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>特になし</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>授業中の態度や積極性 40% 期末試験 60%</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

教育相談論			殿塚貴史	
必修科目	講義	2単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(教育相談論)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(教育相談論)」			
担当教員の実務経験	東京都世田谷区の中学校での心理相談員			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>前期は、保育現場の日常を客観的に見て、知るところから始まり、徐々に現代の子どもがかかえる悩みごと、困りごとに対してどのように把握し、介入していきけるか、具体的にはカウンセリングの技術について講義と演習で学んでいく。後期は、子どもの特徴をどう捉えてみると良いのかを考え、次いで、子どもたちを取り囲む背景、広義の教育相談としてどのように子どもたちを「相談支援」という形で守って見届けていきけるかを養う理解力を深めていく。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>(1) 学校における教育相談の意義と理論を理解する。(2) 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。(3) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解する。(4) 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。(5) 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。(6) いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。(7) 教育相談の基礎となるコミュニティアプローチの内容と方法を理解している。(8) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>講義形式</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション、学校心理学とコミュニティアプローチ  第2回：ロジャーズの3つの態度要件とカウンセリングマインド  第3回：子ども理解1 子どもの自己表現能力 自己開示と自己呈示  第4回：子ども理解2 乳幼児期の発達的特徴  第5回：子どもと環境1 虐待と関連機関  第6回：子どもと環境2 外傷体験・喪失体験  第7回：子どもと環境3 保護者が育児の困る時  第8回：子どもと環境4 保育者自身のメンタルケア  第9回：園で教育相談を行なうときに気をつけること  第10回：園から学校への橋渡しで気をつけること  第11回：通常の幼児教育の業務と教育相談との違い  第12回：コミュニティアプローチの方法1  第13回：コミュニティアプローチの方法2  第14回：コミュニティアプローチの方法3  第15回：期末試験とまとめ</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>特になし</p>				
<p>&lt;テキスト・教科書&gt;</p> <p>教育相談 (Next 教科書シリーズ) 弘文堂 津川律子 山口義枝 北村世都 編</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>特になし</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>授業中の態度や積極性 40% 期末試験 60%</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

教育心理学			黒石憲洋	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程）			
保育士養成課程の区分	学校独自の科目			
担当教員の実務経験	－			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>教育を考える上で必要となる心理学の基礎概念・用語について理解するとともに、子どもの発達や成長、学習やその個人差を見極めて支えていく上で必要となる考え方として、心理学的な理論や評価や介入の仕方について学習する。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習についての歴史的な考え方について理解する。</li> <li>2. 学習を支える動機づけに関する理論を理解し、子どもの動機づけを高める働きかけや介入の仕方を検討する視点を習得する。</li> <li>3. 行動における個人差としてのパーソナリティに関する考え方を理解する。</li> <li>4. 教育における評価のあり方について理解し、その影響について検討する視点を習得する。</li> </ol>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>講義、アクティビティ、グループ・ディスカッション、発表などを組み合わせておこなう。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：ガイダンスとイントロダクション：講義の概要、教育心理学で学ぶこと  第2回：教育とは：教育と保育、教育と学習、遺伝と環境  第3回：学習理論①：行動主義（古典的条件づけとオペラント条件づけ）  第4回：学習理論②：認知主義  第5回：学習理論③：状況主義  第6回：動機づけ理論①：欲求理論、達成動機理論、原因帰属理論、目標理論  第7回：動機づけ理論②：学習性無力感理論、自己効力理論  第8回：動機づけ理論③：認知的評価理論、自己決定理論  第9回：パーソナリティ理論①：類型論的理解  第10回：パーソナリティ理論②：特性論的理解  第11回：パーソナリティ理論③：愛着型とその発達  第12回：教育における評価①：絶対評価、形成的評価、ルーブリックとポートフォリオ  第13回：教育における評価②：教育における認知的バイアス  第14回：新しい学習の形態：協同学習、アクティブラーニング  第15回：試験および全体のまとめ</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>事後学修として、授業ノートを整理し、内容の確認をおこなう。前回の授業内容は、次回までにしっかりと理解しておくこと。不明な点については、自主学習や受講生間の協同学習、教員への質問などにより必ず解消しておくこと。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>テキストは特に使用しない。必要に応じて講義中に資料を配付する。</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>市川伸一（1995）. 学習と教育の心理学 岩波書店  レイブ・ウェンガー（1993）. 状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加 産業図書  ステイペック（1990）. やる気のない子どもをどうすればよいか 二瓶社</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>授業内で実施する期末試験において、合格点（100 点満点中、60 点以上）を満たせば、単位を認定する。</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

教育実習 I			岸本圭子・甲田美香	
必修科目	演習	4 単位	2 年次	複数
教員養成課程の区分	教育実践に関する科目「(教育実習)」			
保育士養成課程の区分	—			
担当教員の実務経験	岸本：私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務 甲田：私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭免許取得のための実習として、幼稚園や認定子ども園において観察・参加実習を行う。</li> <li>・幼稚園での実習を通じて、幼児理解を深めるとともに、幼稚園の機能および教諭の職務について実践的に学ぶ。</li> <li>・教育現場での実践を通じて、教員としての資質能力、実践的指導力を体得する責任実習を行う。</li> </ul>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、幼稚園・認定子ども園の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。</li> <li>3、既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。</li> <li>4、保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5、幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</li> </ol>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>幼稚園・認定こども園で、9月～原則一日8時間22日間実習を実施する。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園・認定子ども園の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 幼稚園・認定子ども園の生活と一日の流れ</li> <li>(2) 幼稚園・認定子ども園の役割と機能</li> </ol> </li> <li>2. 園児の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 園児の観察とその記録</li> <li>(2) 個々の状態に応じた支援や関わり</li> </ol> </li> <li>3. 教育内容・生活環境 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 計画に基づく活動や支援</li> <li>(2) 園児の心身状態に応じた対応</li> <li>(3) 園児の活動と生活環境</li> <li>(4) 健康管理と安全対策の理解</li> </ol> </li> <li>4. 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 指導計画の理解と活用</li> <li>(2) 記録に基づく省察・自己評価</li> </ol> </li> <li>5. 専門職としての教諭の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教諭の業務</li> <li>(2) 職員間の役割分担や連携</li> <li>(3) 教諭の役割と職業倫理</li> </ol> </li> </ol>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>理論と実践の具体的な相互関係を学び、保育者としてのあり方を学ぶ。また、日々の実習を振り返りながら、実習の内容を日誌に記録し、それをもとに次の日の準備や指導案作成・準備をする。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>「幼稚園・保育所・認定子ども園実習パーフェクトガイド」 小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子 わかば社 「実習の手引き」 聖ヶ丘保育専門学校 編</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>「幼稚園教育要領解説 (平成 30 年 3 月)」文部科学省 「保育所保育指針解説 (平成 30 年 3 月)」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (平成 30 年 3 月)」内閣府・文部科学省・厚生労働省</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>実習先の評価に基づく実習指導部の評価 40% 実習日誌などの評価 60%</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>教育実習指導の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数の3分の2以上に出席すること、および教育実習の単位修得が必要となる。</p>				

教育行政			小堀哲郎	
必修科目	講義	2 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分				
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「(教育行政)」			
担当教員の実務経験	—			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>日本の教育行政の理念や仕組み、教育に関する法律について、基本的な内容や歴史の変遷を理解する。また、保育現場と地域との連携について、その意義や具体的な方法についても学ぶ。さらに、保育者として理解しておくべき現場の安全や危機管理についても具体的な事例をもとに理解する。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>① 教育の理念や教育行政の理念を理解する。  ② 教育関係法規を理解する。  ③ 教育制度・保育制度を理解する。  ④ 地域との連携や保育現場の安全等について、専門職としての関わり方を理解する。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>講義を中心とするが、ディスカッションやプレゼンテーション等を積極的に導入する。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 ガイダンス 教育行政とは何か  第2回 保育・教育制度の歴史  第3回 保育制度について 児童福祉法  第4回 教育制度について 教育基本法・学校教育法  第5回 子どもの権利条約  第6回 子ども子育て支援新制度  第7回 保育現場と地域との連携① 地域との連携の意義  第8回 保育現場と地域との連携② 地域との連携の方法  第9回 保育現場の安全と危機管理  第10回 幼稚園教育要領を読む  第11回 保育所保育指針を読む  第12回 幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読む  第13回 保育・教育制度の課題  第14回 全体のまとめ  第15回 試験と解答・解説</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>事前に資料のある場合は読んでくること、授業後は覚えるべきものは覚えること。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>特になし</p>				
<p>&lt;参考資料&gt;</p> <p>幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）  幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）  保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>期末試験（60%）、各回の課題・レポート等（40%）</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

教育原理			亀田良克	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「(教育原理)」			
保育士養成課程の区分	—			
担当教員の実務経験	—			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>日本と諸外国の教育法規や制度を概観するとともに教育に関する歴史と思想をたどりながら教育についての理解を深めていく。また、教育現場の実践について、教育目的や内容、教育評価、学校教育、家庭教育などのさまざまな側面を学んでいく。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>「教育とは何か」について探求を深めるために教育の概念、理念、歴史、思想を知ることをねらいとする。また、講義で学んだことを基礎に、教育や保育の現場で自らの教育観を構築できる力と姿勢を身につけることを目的とする。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>講義を中心に進めていく。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第 1 回 オリエンテーション (教育の意義)</p> <p>第 2 回 教育の目的</p> <p>第 3 回 乳幼児期の教育の特性</p> <p>第 4 回 教育と子ども家庭福祉の関連性</p> <p>第 5 回 人間形成と家庭・地域社会</p> <p>第 6 回 諸外国の教育の思想</p> <p>第 7 回 諸外国の教育の歴史</p> <p>第 8 回 日本の教育の歴史と思想</p> <p>第 9 回 子ども観と教育観</p> <p>第 10 回 教育制度の基本</p> <p>第 11 回 教育の法律と行政</p> <p>第 12 回 諸外国の教育制度</p> <p>第 13 回 教育実践の基礎</p> <p>第 14 回 さまざまな教育実践</p> <p>第 15 回 講義の振り返りと試験</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>各回の授業終了時に次回の学修内容を伝達するので、テキストの該当箇所を授業前に読んでから授業に臨むこと。また、授業内で学んだ重要なキーワードを中心に配布資料に目を通し、講義内容について各自で復習をしておくこと。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>公益社団法人児童育成協会監修 矢藤誠慈郎・北野幸子編 基本保育シリーズ 2 『教育原理』 中央法規</p>				
<p>&lt;教科書・参考資料&gt;</p> <p>幼稚園教育要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省)</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p> <p>保育所保育指針 (平成 29 年 3 月告示 厚生労働省)</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>期末試験 (80%) とリフレクションシートへの記載内容 (20%) とで総合的に判断する。</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

教育学			川久保学	
必修科目	講義	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	—			
保育士養成課程の区分	—			
担当教員の実務経験	高校教員37年 大学講師13年			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>「何をどう教えるか」は分野によって違うが、「人にものを教える」のは皆同じである。教育学ではこの「人にものを教える」ことを問題にする。人間、特に子どもをどう捉えるかによって、教育の性質は変わる。教育史上特筆すべき教育思想家が目指した人間の在り方を振り返りつつ、教育とはどういうものかを検討する。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <p>教育の根幹をなす幼児・子ども期の教育及び保育について、それが子ども観や教育観といった形で時代的・社会的、あるいは思想的影響下にあることを理解し、幼児教育・保育に携るとはどのようなことなのかを考察する。</p>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>パワーポイントによる講義形式</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 コメニウスの教育思想（汎知主義/人間の自然/教育印刷術）</p> <p>第2回 ルソーの教育思想（エミール/自然人/消極教育）</p> <p>第3回 カントの教育思想（自然的教育/人間形成/世間的怜悯）</p> <p>第4回 ペスタロッチの教育思想（生活陶冶/隠者の黄昏/直観教授）</p> <p>第5回 フレーベルの教育思想Ⅰ（人間の教育/恩物/キンダーガルテン）</p> <p>第6回 フレーベルの教育思想Ⅱ（母の歌と愛撫の歌/子どもたちに生きる）</p> <p>第7回 ロマン主義の教育思想（フィヒテ/シェリング/シュタイナー）</p> <p>第8回 モンテッソーリの教育思想Ⅰ（感覚教育/敏感期/イタール）</p> <p>第9回 モンテッソーリの教育思想Ⅱ（カーサデイバンビニ/教具）</p> <p>第10回 デューイの教育思想Ⅰ（経験と自然/実験学校/プラグマティズム）</p> <p>第11回 デューイの教育思想Ⅱ（なすことによって学ぶ/道具主義）</p> <p>第12回 オーベルリーンの社会事業（編物学校/母親学校/ナーサリースクール）</p> <p>第13回 オーウェンの社会事業（性格形成学院/セツルメント運動）</p> <p>第14回 日本の幼児教育の歩み（倉橋惣三/大正自由主義教育）</p> <p>第15回 日本の保育の歩み（石井十三/石井亮一/石井筆子/野口幽香）</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>授業後提示される課題レポート作成（60時間）</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>授業時に配布</p>				
<p>&lt;教科書・参考資料&gt;</p> <p>なし</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>期末/演習/演習</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

教育課程総論			濱野陽子	
必須科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(教育課程総論)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(教育課程総論)」			
担当教員の実務経験	幼稚園教諭 (幼稚園 30 年) 保育士 (保育所 2 年)			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育、幼児教育における教育課程の基本的知識を習得し、保育計画の作成について学ぶ。</li> <li>・就学前教育の独自性を理解し、子どもを主体とする保育計画の作成方法を習得する。</li> </ul>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 保育、幼児教育の基本的な理念及び教育課程の意義と編成について理解する。</li> <li>② 子どもの姿、発達過程、保育内容をもとに実際に指導計画を作成することを通して、保育記録、指導計画、保育の実践、評価、指導計画の改善の過程を学び、子ども一人ひとりに対する適切な援助について考える。</li> </ol>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>グループワーク、ディスカッション</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第 1 回 保育における計画の意義「教育課程とは」</p> <p>第 2 回 保育におけるカリキュラムとは「物語る」ことの意味を探る</p> <p>第 3 回 保育の基本と計画①「環境を通した保育」</p> <p>第 4 回 保育の基本と計画②「遊びを通した保育」</p> <p>第 5 回 指導計画の作成の基本とその方法について①長期の指導計画</p> <p>第 6 回 指導計画の作成の基本とその方法について②短期の指導計画</p> <p>第 7 回 保育所、認定こども園の理解</p> <p>第 8 回 乳児の特徴と指導計画</p> <p>第 9 回 幼稚園の理解</p> <p>第 10 回 幼児の特徴と指導計画</p> <p>第 11 回 Web を使った指導計画</p> <p>第 12 回 保育の実践と評価①「計画、実践、評価、改善という一連の流れを理解する。」</p> <p>第 13 回 保育の実践と評価②「保育実践の振り返り ドキュメンテーションを通して」</p> <p>第 14 回 小学校との接続</p> <p>第 15 回 本授業の振り返り及びまとめ</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>授業ノートを整理し内容の確認をおこない、前回の授業内容は次回までに理解する努力をし、不明点は受講生間での協同学習や自主学習で解消しておくこと。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>幼稚園教育要領 (平成29年3月告示文部科学省)</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成29年3月告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p> <p>保育所保育指針 (平成 29 年 3 月告示厚生労働省)</p>				
<p>&lt;教科書・参考資料&gt;</p> <p>『教育課程・保育の計画と評価』-書いて学べる指導計画-岩崎淳子他 2018 年</p> <p>『教育・保育カリキュラム論』千葉武夫他 2019 年</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>① 期末試験 (60%) ②提出物 (30%) ③授業態度 (10%) 総合的に評価する。</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

教育の方法と技術			齋藤澄子	
必修科目	講義	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「教育の方法と技術」）			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目（「教育の方法と技術」）			
担当教員の実務経験	小学校教員 28 年、学校管理職 6 年、教育委員会指導主事 4 年			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>園児が成長していく過程で経験する教育・学習活動全般に見通しをもって子どもと関わるができるように、教育者としての学びを培い、教育方法についての理解を深め実践的な指導技術を身に付ける。また情報機器の効果的な活用や視聴覚教材の作成方法等についても理解を深める。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児や児童の発達の特性を踏まえた教育方法の理論が理解できる。</li> <li>・ 接続期の教育のあり方を理解し、幼保小連携の具体的な事例を通して指導技術を身に付ける。</li> <li>・ 情報機器の効果的な活用、ICT教育の活用についての知識を習得する。</li> </ul>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>テキストの内容に準じて、講義を進める。本時の課題提示の後自力思考を経てから講義を行う。必要に応じてグループワークを取り入れ協働的に学ぶ方法も採り入れる。授業の最後にはリフレクションタイムをとり、授業の振り返りを行う。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 教育の方法と技術の意義</p> <p>第3回 子どもの発達段階と教育</p> <p>第4回 子どもが育つ環境を作る方法を探る</p> <p>第5回 遊びや関わりを生かして教育する方法</p> <p>第6回 気になる子どもへの指導・支援の方法</p> <p>第7回 記録から方法を探る</p> <p>第8回 学びの連続性と教育方法① 育ちと学びを繋ぐ</p> <p>第9回 学びの連続性と教育方法② 幼稚園におけるアプローチカリキュラムの実践例</p> <p>第10回 学びの連続性と教育方法③ 小学校におけるスタートカリキュラムの実践例</p> <p>第11回 学びの連続性と教育方法④ 接続期カリキュラムの実践例</p> <p>第12回 連携という方法を探る</p> <p>第13回 ICTを活用した教育の方法と技術</p> <p>第14回 方法を探求するために～保育者として 人間として～</p> <p>第15回 講義のまとめと前期末テスト</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業前の準備学習としてテキストの指定されたところを読む</li> <li>・ 授業後のノート整理、定着確認学習</li> </ul>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>保育方法の実践的理解（久富陽子、梅田優子）萌文書林 2018年 第2版</p>				
<p>&lt;教科書・参考資料&gt;</p> <p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>授業の振り返り学習とコメント（50%） 確認試験（50%）</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				

教育・保育実地研究			岸本圭子・清水かおり・田村雅美・甲田美香	
必修科目	演習	2単位	1年次	複数
教員養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(教育・保育実地研究)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(教育・保育実地研究)」			
担当教員の実務経験	—			
<b>授業の概要</b> 教育・保育実地研究は本校の附属園・提携園を効果的に活用して、園で積極的に子どもたちと関わることにより、子どもを知り、保育の楽しさを実感し、今後の保育を学んでいこうとする意欲を育てる必修科目である。4月から5月まで事前指導を受け、6月から9月までの隔週1日附属園・提携園の現場で子どもと直接関わることで、さまざまな発見や気づきを記録する。それを学校においてグループで共有し、整理・発表するとともに、子どもや保育のイメージが明確にして、今後の授業や実習にスムーズに入っていけるための入門的・導入的な授業である。				
<b>&lt;授業の到達目標&gt;</b> ・子どもと遊びや生活をともにする楽しさを味わう中で、子どもを知る。 ・園の環境や保育者の関わり方を知る。				
<b>&lt;授業方法&gt;</b> 対面にて体験学習前の心構え、子どもとのかかわり方、準備することなど学ぶ。実際に附属・提携園に行き、子どもの生活や遊び、保育者の関わりなど見て学び、学校にて振り返りをする。				
<b>&lt;授業計画&gt;</b> 第1回：実習部長挨拶、実習部紹介、学校生活などについて 第2回：体験学習実習の流れ、心構えなど、教材研究ノートについて、 第3回：配当発表 身上書の書き方(下書き)、身上書(本書き) 第4回：体験学習のねらいについて、健康管理・予防接種について 第5回：記録の書き方について、オリエンテーションの受け方について、細菌検査配付 第6回：園の先生方をお迎えして 第7回：附属園にてオリエンテーション 第8・9・10・11回：実地研究1回目：子どもと遊ぶ 第12回：振り返り 第13回：カルテ記入、トラブルシューティングについて 第14・15・16・17回：実地研究2回目 第18回：振り返り 第19・20・21・22回：実地研究3回目 第23回：振り返り 第24回：身だしなみ、教材研究について 第25・26・27・28回：実地研究4回目回： 第29回：振り返り 第30回：実地研究まとめ				
<b>&lt;授業時間外学修&gt;</b> 各自教材研究を進め、子どもとのかかわる際の準備をする。また、授業での学びを振り返り、見直しをする。				
<b>&lt;テキスト&gt;</b> 特になし				
<b>&lt;教科書・参考資料&gt;</b> 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 「実習の手引き」 聖ヶ丘保育専門学校 編				
<b>&lt;成績評価&gt;</b> 毎回の授業 実習に対する取り組み 70% 課題・提出物 30% ・クラス 配属園によって日程や内容に変更がある場合がありますので注意してください。				
<b>&lt;備考&gt;</b> 特になし				

基礎造形		羽田顕佑		
必修科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(基礎造形)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(基礎造形)」			
担当教員の実務経験	—			
<p>&lt;授業概要&gt;</p> <p>描く・作る等の造形行為を主とした表現活動の体験を通し、素材や用具の特性を理解すると共に、保育・教育の活動場面における援助の方法や留意点について知る。</p>				
<p>&lt;授業の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育活動の造形行為にある一般的な造形要素（素材・用具を含む）を扱うことができる。</li> <li>2. 子どもの発達等の状況をふまえた、素材や用具の提供や援助の留意点を考えることができる。</li> <li>3. 様々な素材との触れ合いではたらく身体の諸感覚への認識をもつことができる。</li> </ol>				
<p>&lt;授業方法&gt;</p> <p>実技演習を中心として、要所に講義を交える。実技演習では個人および集団による制作や遊びを取り扱う。</p>				
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 【講義】 ガイダンス 授業の趣旨，概要，求める姿勢，評価について</p> <p>第2回 【演習】 画用紙パペット作り①素材の質的变化を感じる</p> <p>第3回 【演習】 画用紙パペット作り②用具と描画材の工夫</p> <p>第4回 【演習】 描画材：クレヨン、クレパス①色の基本要素を学ぶ</p> <p>第5回 【演習】 描画材：クレヨン、クレパス②材質を活用した遊び</p> <p>第6回 【演習】 描画材：色鉛筆、マーカーペン（線描を楽しむ）</p> <p>第7回 【演習】 描画材：マーカーペン（液体顔料、染料を活かした遊び）</p> <p>第8回 【演習】 描画材：絵の具①技法で遊ぶ</p> <p>第9回 【演習】 描画材：絵の具②用具を伴った表現</p> <p>第10回 【演習】 立体素材：小麦粉粘土（触覚の再発見と素材の呼応性）</p> <p>第11回 【講義】 演習振り返り 素材との関わりと身体の発達</p> <p>第12回 【講義】 雑材の活用：紙コップ①工作体験（用具の取り扱いについて）</p> <p>第13回 【演習】 雑材の活用：紙コップ②造形遊び体験</p> <p>第14回 【園種】 雑材の活用：牛乳パックを用いた工作（制作の工程を捉える）</p> <p>第15回 【講義】 まとめ</p>				
<p>&lt;授業時間外学修&gt;</p> <p>事後学修として、毎時の振り返り記述を実施・提出すること。また、各自記録する授業ノートおよび配布資料を照応・整理する機会を設けること。</p> <p>事前学修として、資料の参照を指示する場合がある。</p>				
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>『&lt;感じる事&gt;からはじまる子どもの造形表現-理論と実践事例から学び、考えよう-』平田智久ほか，教育情報出版，2022</p>				
<p>&lt;教科書・参考資料&gt;</p> <p>『造形のじかん』佐善圭編著、愛智出版、2013</p> <p>『幼稚園教育要領』平成29年3月告示，文部科学省</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年3月告示，内閣府・文部科学省・厚生労働省</p> <p>『保育所保育指針』平成29年3月告示，厚生労働省</p>				
<p>&lt;成績評価&gt;</p> <p>1. 授業への取り組み(10%) 2. 成果物・記録(40%) 3. 最終試験(50%)</p>				
<p>&lt;備考&gt;</p> <p>特になし</p>				